

# Novell NetWare® Migration Wizard 6

[www.novell.com](http://www.novell.com)

---

管理ガイド



# N

Novell®

## 法的事項

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本製品を米国またはカナダから輸出する際には、事前に米国商務省の輸出許可が必要となります。

Copyright © 2001 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国特許番号 5,157,663; 5,349,642; 5,455,932; 5,553,139; 5,553,143; 5,572,528; 5,594,863; 5,608,903; 5,633,931; 5,652,859; 5,671,414; 5,677,851; 5,692,129; 5,701,459; 5,717,912; 5,758,069; 5,758,344; 5,781,724; 5,781,724; 5,781,733; 5,784,560; 5,787,439; 5,818,936; 5,828,882; 5,832,274; 5,832,275; 5,832,483; 5,832,487; 5,850,565; 5,859,978; 5,870,561; 5,870,739; 5,873,079; 5,878,415; 5,878,434; 5,884,304; 5,893,116; 5,893,118; 5,903,650; 5,903,720; 5,905,860; 5,910,803; 5,913,025; 5,913,209; 5,915,253; 5,925,108; 5,933,503; 5,933,826; 5,946,002; 5,946,467; 5,950,198; 5,956,718; 5,956,745; 5,964,872; 5,974,474; 5,983,223; 5,983,234; 5,987,471; 5,991,771; 5,991,810; 6,002,398; 6,014,667; 6,015,132; 6,016,499; 6,029,247; 6,047,289; 6,052,724; 6,061,743; 6,065,017; 6,094,672; 6,098,090; 6,105,062; 6,105,132; 6,115,039; 6,119,122; 6,144,959; 6,151,688; 6,157,925; 6,167,393; 6,173,289; 6,192,365; 6,216,123; 6,219,652; 6,229,809. 特許未決定。

Novell, Inc.  
1800 South Novell Place  
Provo, UT 84606  
U.S.A.

[www.novell.com](http://www.novell.com)

NetWare Migration Wizard 6 管理ガイド  
2001 年 10 月

オンラインドキュメント：本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、<http://www.novell.com/documentation/japanese> を参照してください。

## Novell の商標

ConsoleOne は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Internetwork Packet Exchange および IPX は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NetWare Loadable Module および NLM は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Directory Services および NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Distributed Print Services は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における商標であり、

NDPS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Storage Management Services および SMS は、米国 Novell, Inc. の商標です。

ZENworks は、米国 Novell, Inc. の商標です。

## サードパーティの商標

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。



# 目次

NetWare Migration Wizard 6 管理ガイド	7
マニュアルの表記規則	7
<b>1 NetWare 3 からのデータの移行</b>	<b>9</b>
システム要件とソフトウェア要件の適合	10
ワークステーションを準備する	10
移行元サーバを準備する	11
移行先 NDS ツリーでサーバを準備する	11
テンプレートオブジェクトを作成する	12
Novell NetWare Migration Wizard の実行	12
移行プロジェクトのモデル化	15
移行プロジェクトの検証	17
移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行	17
移行後の作業の実行	20
<b>2 NetWare 4、5、6 からのデータの移行</b>	<b>21</b>
システム要件とソフトウェア要件の適合	22
ワークステーションを準備する	22
移行元サーバを準備する	22
移行先サーバを準備する	23
Migration Wizard の実行	25
ボリュームのコピー	26
環境設定ファイルの編集	28
NDS の移行の開始	29
NDS の移行の終了	31
移行後の作業の実行	32
<b>3 Windows NT からのデータの移行</b>	<b>33</b>
システム要件とソフトウェア要件の適合	35
準備作業の実行	36
テンプレートオブジェクトを作成する	36
ZENworks ユーザポリシーパッケージを作成する	37
ワークステーションを登録する	38
マイグレーションウィザードの実行	39
移行プロジェクトのモデル化	42
移行プロジェクトの検証	45
移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行	46
移行後の作業の実行	50

<b>4</b>	<b>トラブルシューティング</b>	<b>51</b>
	一般的な接続の問題	51
	ワークステーションからサーバへの接続	52
	サーバからサーバへの接続	53
	ファイルのコピー	53
	SMDR エラー	54
	トラスティの復元	54
	NUWAGENT.NLM	55
	NICI エラー	55
	NDS の移行	56
	移行元サーバを元の設定へ復元する	56
	移行先サーバから NDS を削除する	57
	移行元サーバから NDS を削除する	58
	移行元サーバへ NDS を復元する	59
	移行先サーバを再インストールする	60

# NetWare Migration Wizard 6 管理ガイド

Novell® NetWare® Migration Wizard 6 を使用すると、NetWare または Windows\* NT\* サーバのデータを、ネットワーク上にある別の NetWare サーバにコピーできます。

**「NetWare 3 からのデータの移行」**—Migration Wizard は、NetWare 3 ファイルシステムおよびバインダリオブジェクトを、移行先の NDS® ツリーにコピーします。移行先の NDS ツリーにコピーしたバインダリオブジェクトは、自動的に NDS オブジェクトに変換されます。

**「NetWare 4、5、6 からのデータの移行」**—Migration Wizard では、移行元の NetWare 4、NetWare 5、または NetWare 6 サーバから、より高速で信頼性が高い移行先の NetWare サーバに、ファイルシステムおよび NDS データベースを移行します。NDS が移行された後、移行先サーバは、ネットワーク上にある移行元サーバの識別情報を引き継いで置き換わります。有効な移行先サーバは、NetWare 5.0、5.1、または 6 を実行しているサーバです。

**「Windows NT からのデータの移行」**—Migration Wizard では、Windows NT 3.51 または 4 のサーバから移行先の NDS ツリーに、NT ドメインユーザ、ローカルグループ、およびグローバルグループを移行します。移行時には、NT のユーザおよびグループが NDS オブジェクトに変換され、移行先の NDS ツリーに配置されます。また NetWare Migration Wizard 6 では、Windows NT の権利を NetWare のトラスティ権に移行して変換するときに、NT の共有フォルダを NetWare ファイルシステムに移行します。

## マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

また、「®」、「™」などの商標記号は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) はサードパーティの商標を示します。

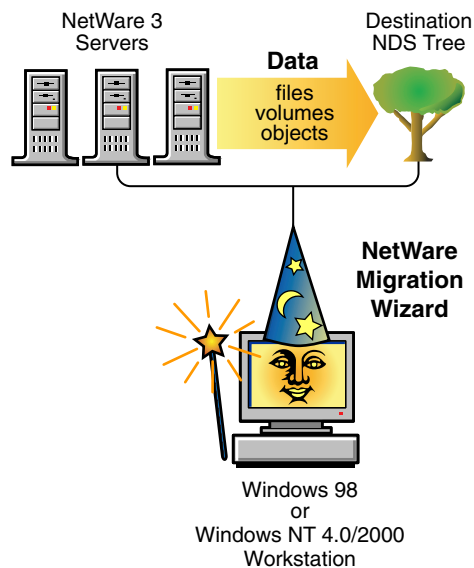


# 1

## NetWare 3 からのデータの移行

Novell® NetWare® Migration Wizard 6 は、1 つ以上の既存の NetWare 3 サーバから移行先の NDS® ツリーに、NetWare 3 バインダリおよびファイルシステムをコピーして統合します。

次の図は、Migration Wizard が、複数の NetWare 3 サーバから移行先の NDS ツリーに対するデータの移行を管理する方法を示しています。



NetWare 3 からのデータを移行するには、次の作業を一覧の順番に実行します。

1. 10 ページの「システム要件とソフトウェア要件の適合」
2. 12 ページの「Novell NetWare Migration Wizard の実行」

3. 17 ページの「移行プロジェクトの検証」
4. 17 ページの「移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行」
5. 20 ページの「移行後の作業の実行」

## システム要件とソフトウェア要件の適合

- 移行先の NDS ツリーのバインダリコンテキストに表示されるユーザとして、移行先の NDS ツリーにログインします。このユーザは、ファイルデータの移行先になるサーバに対してスーパーバイザ権を持ち、さらに使用可能なユーザライセンスを 3 つ持っていることを確認してください。

スーパーバイザ権を有効にする方法については、[ConsoleOne™ のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/japanese\)](http://www.novell.com/documentation/japanese) を参照してください。
- NetWare 3 からデータを受け取る NDS コンテナおよびディレクトリのすべてに対して、書き込み権があることを確認してください。

## ワークステーションを準備する

- 50MB 以上の使用可能なディスク容量がある、Windows 98、Windows NT(4.0 以降)、または Windows 2000 ワークステーション。

重要 : NetWare Migration Wizard 6 は、Windows 95 ワークステーションでは実行できません。

  - ◆ Windows 98 ワークステーションでは、Novell Client™ for Windows 98 バージョン 3.3 以降を実行している必要があります。
  - ◆ Windows NT/2000 ワークステーションでは、Novell Client for Windows NT/2000 バージョン 4.8 以降を実行している必要があります。

Novell Client の現在のバージョンを調べるには、ワークステーションツールバーの [N] アイコンを右クリックし、[Novell Client Properties] > [Client] の順にクリックします。最新のクライアントをダウンロードする場合は、[Novell Software Downloads Web サイト \(http://www.novell.com/download\)](http://www.novell.com/download) を参照してください。
- Novell Client ワークステーションで実行している IPX™ プロトコル。クライアントワークステーションから、移行元サーバおよび移行先ツリーへの IPX 接続が可能であることを確認してください。

## 移行元サーバを準備する

移行元サーバは、移行先の NDS ツリーにコピーするデータが格納されている既存のサーバです。

- ❑ 移行元サーバでは、NetWare 3.11 以降を実行している必要があります。

移行を予定している移行元の各 NetWare 3 サーバのサーバコンソールで、次の NLM™ プログラムをロードします。

- ◆ NetWare 3.11 の場合は、TSA311.NLM をロードします。
  - ◆ NetWare 3.12 および 3.2 の場合は、TSA312.NLM をロードします。
- ❑ SYSCON を使用して、移行元サーバに対するコンソールオペレータの権限があることを検証します。
  - ❑ 移行元サーバのデータをすべてバックアップします。

## 移行先 NDS ツリーでサーバを準備する

移行先の NDS ツリーは、移行元の NetWare 3 サーバから移行されるデータを受け取るサーバが含まれている NDS ツリーです。移行元サーバからコピーされたデータは、移行先の NDS ツリーに表示されます。

移行先の NDS ツリーで、データの移行先になるすべてのサーバが、次の条件を満たしていることを確認してください。

- ❑ NetWare 4、NetWare 5、または NetWare 6 がインストールされている。

注：NetWare Migration Wizard 6 では、NetWare 4.10 サーバへの移行は実行できません。

- ❑ IPX プロトコルが実行していて、この IPX プロトコルが、ファイルの移行先の NDS ツリー内にある各 NetWare サーバが備えているネットワークカードにバインドされている。

警告：IPX が移行先サーバにバインドされておらず、実行していない場合は、ファイルは移行できません。IPX がバインドされているかどうかを確認するには、移行先サーバのサーバコンソールで、「CONFIG」と入力します。

次のセクション「[テンプレートオブジェクトを作成する](#)」に進んでください。

## テンプレートオブジェクトを作成する

これはオプションの移行の準備作業です。テンプレートオブジェクトは、移行時に、NetWare 3 ユーザに対する追加の NDS ユーザ属性を定義するために使用します。NetWare 3 ユーザの NDS ツリーへの移行と、移行後の管理を容易に行えるようにするため、テンプレートオブジェクトの使用を推奨します。

テンプレートオブジェクトのプロパティと NetWare 3 ユーザのプロパティの間に矛盾があれば、ほとんどの場合、テンプレートオブジェクトのプロパティが優先されます。たとえば、NetWare 3 ユーザの Jeff に対して、最小パスワード長が 7 文字に指定されていて、テンプレートオブジェクトでは最小パスワード長が 9 文字に指定されている場合、Jeff のオブジェクトが移行されると、NDS ではパスワード長が 9 文字のオブジェクトが作成されます。

テンプレートオブジェクトで定義できる追加の NDS 属性を調べるには、ConsoleOne を実行し、テンプレートオブジェクトをダブルクリックします。これにより、既存のプロパティがすべて表示されます。

すべての NetWare 3 オブジェクトについて、姓、氏名、および説明は必ず移行され、これらに対応するテンプレートオブジェクトのプロパティは上書きされます。

テンプレートオブジェクトを使用する場合は、ConsoleOne で [ファイル] > [新規作成] > [オブジェクト] > [テンプレート] の順にクリックしてテンプレートオブジェクトを作成します。

次のセクション「**Novell NetWare Migration Wizard の実行**」に進んでください。

## Novell NetWare Migration Wizard の実行

- 1 **Novell Software Downloads Web サイト** (<http://www.novell.com/download/>) の「NetWare」セクションから、NetWare Migration Wizard 6 をダウンロードしてインストールします。
- 2 インストールした場所から Migration Wizard を実行します。  
デフォルトでは、インストールプログラムによって [スタート] メニュー > [プログラム] > [Novell] > [Netware Migration Wizard] > [NetWare Migration Wizard] に Migration Wizard がインストールされます。
- 3 初期画面の説明を読み、[OK] をクリックします。
- 4 [Create a New Project] > [OK] の順にクリックします。

- 5 [NetWare 3] > [OK] の順にクリックします。
- 6 [View Setup Tasks] ボタンをクリックします。

これにより、デフォルトの Web ブラウザが起動し、NetWare Migration Wizard 6 のオンラインヘルプが開きます。
- 7 9 ページの第 1 章「NetWare 3 からのデータの移行」を参照し、「システム要件とソフトウェア要件の適合」に記載されているシステムおよびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。ブラウザを閉じます。
- 8 [Next] をクリックします。
- 9 移行プロジェクトに名前を付け、保存する場所を選択して、[Next] をクリックします。

デフォルトでは、C:\Program Files\Novell\NetWare Migration Wizard にプロジェクトが保存されます。
- 10 移行する移行元サーバを選択します。

ログイン済みのサーバだけが [Selected Servers] テキストボックスに表示されます。サーバにログインするには、[Server] アイコンをクリックします。サーバを選択したら、[Next] をクリックします。
- 11 移行先の NDS ツリーを選択し、[Next] をクリックします。
- 12 Migration Wizard で、同じ名前の NetWare 3 オブジェクトおよび NDS ユーザオブジェクトを検索するかどうかを指定するために、[Yes] または [No] をクリックします。次に、[Next] をクリックします。

[Yes] を選択した場合、移行先の NDS ツリーと移行元の NetWare 3 サーバに重複したユーザ名があるかどうかを検索されます。検索結果が表示され、一致したユーザオブジェクトをマージするかどうかを選択できます。
- 13 プロジェクトを作成して保存するには、[Create] をクリックします。

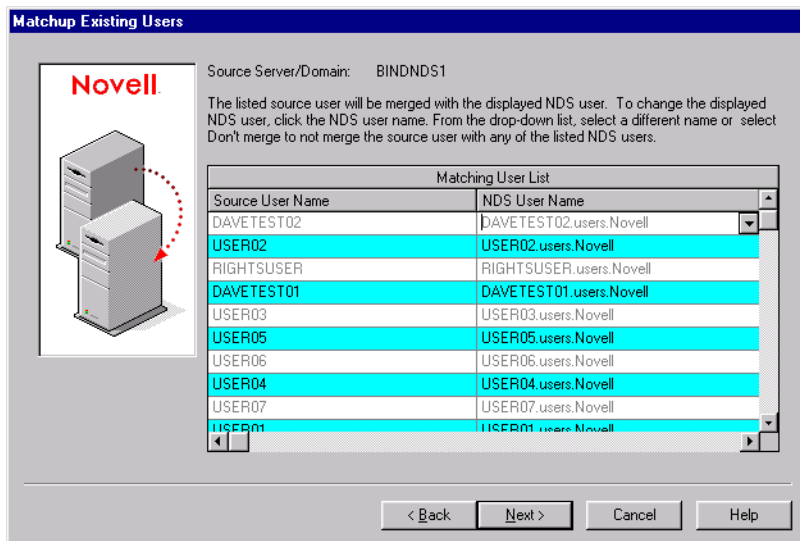
プロジェクトを作成して保存すると、移行時の処理の詳細を示す、成功とエラーのログが作成されます。
- 14 手順 12 で [No] をクリックした場合は、残りの手順を実行せずに、15 ページの「移行プロジェクトのモデル化」に進んでください。手順 12 で [Yes] をクリックした場合は、次の手順に進んでください。
- 15 次の作業を実行します。
  - 15a [Browse] ボタンをクリックし、移行先の NDS ツリーの NDS コンテナを選択します。

Migration Wizard は、選択したコンテナおよびすべてのサブコンテナを検索して、一致する NDS ユーザ名を検出します。

- 15b** ツリーを参照して NDS コンテナを選択し、[OK] をクリックします。
- 15c** 重複したユーザ名の検索を開始するには、[Next] をクリックします。
- 15d** 重複したユーザ名の処理方法を決定します。

次の画面は、Migration Wizard に表示されるユーザ名テーブルの例です。この画面を確認します。変更しない場合は、NetWare 3 ユーザが、表示されている NDS ユーザと自動的にマージされま

図 1 NetWare 3 ユーザと重複した NDS ユーザのマージ



各 NetWare 3 ユーザについて、次のオプションを選択できます。

- ◆ NetWare 3 ユーザを表示された NDS ユーザとマージする  
テーブルに表示された NetWare 3 ユーザをそのまま残しておき、次のユーザへ進みます。
- ◆ 表示された NDS ユーザ以外の NDS ユーザとマージする  
NDS ユーザ名の横にある矢印をクリックすると、その行の NetWare 3 ユーザと同じユーザ名を持つすべての NDS ユーザ（コンテキストを含む）のドロップダウンリストが表示されます。いずれかの NDS 名を選択し、次の NetWare 3 ユーザに進みます。

- ◆ NetWare 3 ユーザをどの NDS ユーザともマージしない  
ドロップダウンリストに表示されるすべての NDS ユーザが、その行の NetWare 3 ユーザと同一人物でない場合は、NDS ユーザ名の横にある矢印をクリックし、[Don't Merge] をクリックします。

**15e** 表示されている各 NetWare 3 ユーザに対してオプションを選択したら、[Finish] をクリックします。

NDS ユーザオブジェクトとマージするように選択した NetWare 3 ユーザは、ドロップしたオブジェクトと同様に、移行先の NDS ツリーに自動的に表示されます。

次のセクション「**移行プロジェクトのモデル化**」に進んでください。

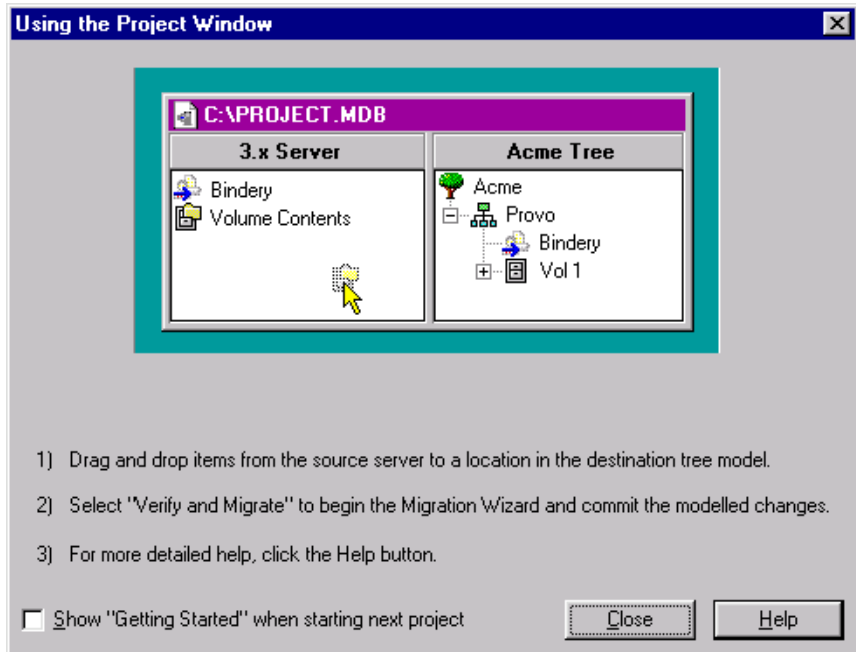
## 移行プロジェクトのモデル化

ほとんどの作業は [Project Window] で行います。[Project Window] では、NetWare 3 のバインダリオブジェクトおよびボリュームデータを移行先の NDS ツリー内にある NDS コンテナにドラッグアンドドロップできます。

また [Project Window] では、実際の移行を開始する前に、さまざまな移行のシナリオをモデル化することができます。移行元サーバのバインダリオブジェクトおよびボリュームデータは [Project Window] の左側に、移行先の NDS ツリーは [Project Window] の右側に表示されます。[Project Window] での移行計画はすべて、オフラインで行います。つまり、[Project Window] で作成や移動を行った項目は、移行を開始するまで、実際には移動または作成されません。

移行プロジェクトを作成すると、[Project Window] および [Using the Project Window] ダイアログボックスが表示されます。次の図は、[Project Window] の上部に表示される [Using the Project Window] ダイアログボックスの例です。

図 2 [Using the Project Window] ダイアログボックス



各移行プロジェクトに対して、このダイアログボックスに表示される 3 つの基本手順を実行します。実行する手順を理解したら、[Close] をクリックして [Project Window] を表示し、移行のモデル化を開始します。

次の作業を実行します。

- 1 コピーする NetWare 3 バインダリオブジェクトとボリュームデータ、およびコピー先になる移行先サーバの NDS ツリー内のコンテナを決定します。
- 2 必要に応じて、移行先の NDS ツリーに新しいオブジェクトを作成します。
  - ◆ 新しい NDS 部門 ( コンテナとも呼ばれる ) を作成するには、部門のペアレントコンテナを右クリックします。
  - ◆ 新しいフォルダを作成するには、既存のフォルダまたはボリュームを右クリックします。
- 3 NetWare 3 のバインダリオブジェクト、フォルダ、およびボリュームを NDS コンテナにドラッグアンドドロップします。

次のセクション「**移行プロジェクトの検証**」に進んでください。

## 移行プロジェクトの検証

[Project Window] で移行をモデル化したら、これらの新しいオブジェクトの格納先として指定した場所が、移行先 NDS ツリー内の既存の名前と競合していないかどうかを検証する必要があります。

ドラッグアンドドロップした項目は NDS ツリーに表示されますが、これらの項目は、NDS ツリー内の目的のエリアへコピーするための準備として割り当てられているだけであることに注意してください。オブジェクトは、移行を開始するまで、実際には移行されません。

移行プロジェクトをモデル化したら、スタンドアロンの検証ウィザードを実行できます。また、検証と移行を同時に実行することもできます。移行の前にスタンドアロンの検証ウィザードを実行する必要はありませんが、移行を開始する前に重大なエラーや警告を検出しておくこと、移行時の検証プロセスにかかる時間が短くなります。

- 1 スタンドアロンの検証ウィザードを実行するには、[Project] > [Verify Project] の順にクリックします。
- 2 次のセクション 17 ページの「移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行」で説明する手順 2 から開始します。

## 移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行

NetWare 3 データのコピー先になるボリュームおよびコンテナは選択しましたが、データはまだ移行されていません。NetWare 3 ユーザオブジェクトを移行すると、NDS オブジェクトに変換され、移行先の NDS ツリーに配置されます。移行を開始するには、次を実行します。

- 1 Migration Wizard のツールバーで、[Project] > [Verify and Migrate Project] の順にクリックします。

**重要:** 検証中、移行元の NetWare 3 サーバ上に古い NLM ファイルがあると通知された場合には、そのファイルを更新する必要があります。ファイルを更新するには、そのファイルを Products¥NW3X ディレクトリからコピーします。Migration Wizard で指示された NLM ファイルだけをコピーするように注意してください。NLM ファイルをコピーした後、移行元の NetWare 3 サーバをリブートし、Migration Wizard を再度実行します。

Products¥NW3X ディレクトリは、Migration Wizard のインストール先と同じディレクトリ (C:¥Program Files¥Novell¥Novell NetWare Migration Wizard¥Products¥NW3X) にあります。

- 2 初期画面の説明を読み、[Next] をクリックします。

- 3 (状況によって実行) 複数のサーバを移行する場合は、移行するサーバの順序を選択し、[Next] をクリックします。

この操作は、複数の移行元サーバ間でユーザオブジェクトが重複している場合にだけ実行します。

- 4 プロンプトが表示されたら、NetWare 3 プリントキューボリュームの移行先になるボリュームを選択し、[Next] をクリックします。

- 5 新しく作成したユーザに対してテンプレートオブジェクトを適用する場合は、ツリーを参照し、ツリービューからテンプレートオブジェクトを選択して、[Next] をクリックします。

テンプレートオブジェクトを使用しない場合は、チェックボックスをオフにして [Next] をクリックします。

**重要:** ホームディレクトリは、自動的に移行されません。ホームディレクトリを移行するには、ホームディレクトリのある NetWare 3 ディレクトリを移行先の NDS ツリーにドラッグアンドドロップする必要があります。次に、NetWare 3 ユーザを移行先の NDS ツリーに移行するときに、テンプレートオブジェクトを使用します。このとき、テンプレートオブジェクトで指定したホームディレクトリのパスが、移行先の NDS ツリー内で NetWare 3 ディレクトリをドロップする場所を示していることを確認します。

**ヒント:** これまでにテンプレートオブジェクトを作成していないが、ここで使用する場合には、プロジェクトを保存して、ConsoleOne を開き、テンプレートオブジェクトを作成します。次に、Migration Wizard を再度実行し、[Open Last Project] をクリックします。移行手順を [17 ページの手順 1](#) から再開します。

- 6 移行元の NetWare 3 サーバと移行先の NDS ツリーで重複するファイル名の処理方法を指定します。次のいずれかを選択し、[Next] をクリックします。

- ◆ [Don't Copy Over Existing Files]
- ◆ [Copy the Source File If It Is Newer]
- ◆ [Always Copy the Source File]

- 7 この NetWare 3 サーバの移行を初めて行う場合は、[Yes] > [Next] の順にクリックします。以前の移行を継続する場合は、[No] > [Next] の順にクリックします。

NetWare 3 のユーザおよびグループを移行すると、NDS 名を持つ各移行元サーバのバインダリにテーブルが格納されます。このテーブルは、NDS ツリーに移行された NetWare 3 ユーザと関連付けられています。Migration Wizard は、このテーブルにユーザの移行先を記録するため、少数のユーザを複数回に分けて移行することができます。また、移行先の情報を格納することにより、正しいファイルのアクセス権が適切なユーザに割り当てられます。

- 8 移行先の NDS ツリーのパスワードを入力し、[Next] をクリックします。
- 9 移行元サーバのパスワードを入力し、[Next] をクリックします。

複数のサーバを同時に移行する場合は、移行するすべての移行元サーバに対して、この画面が表示されます。
- 10 [Next] をクリックし、NetWare 3 ファイルシステムを格納するために必要なディスク容量が、移行先のボリュームにあることを確認します。

Migration Wizard は、ドロップされたフォルダの内容をスキャンし、これらのフォルダを移行するための十分な権利があるかどうかを検証します。
- 11 プロンプトが表示された場合は、タイプが異なるオブジェクト間での名前の競合を解決し、[Next] をクリックします。

タイプが異なるオブジェクトの名前を変更するか、このようなオブジェクトを移行しないかを選択できます。複数のサーバを同時に移行する場合は、移行するすべての移行元サーバに対して、この画面が表示されます。
- 12 プロンプトが表示された場合は、タイプが同じオブジェクト間での名前の競合を解決し、[Next] をクリックします。

タイプが同じオブジェクトをマージするか、このようなオブジェクトを移行しないかを選択できます。複数のサーバを同時に移行する場合は、移行するすべての移行元サーバに対して、この画面が表示されます。
- 13 移行しない NetWare 3 ユーザが表示されたら、これを確認し、[Next] をクリックします。

移行するすべての移行元サーバに対して、この画面が表示されます。誤りがあった場合は、[Cancel] をクリックして [Project Window] に戻り、移行するユーザをドラッグアンドドロップします。
- 14 移行しない NetWare 3 グループが表示されたら、これを確認し、[Next] をクリックします。

移行するすべての移行元サーバに対して、この画面が表示されます。誤りがあった場合は、[Cancel] をクリックして [Project Window] に戻り、移行するユーザをドラッグアンドドロップします。
- 15 重大なエラーを解決し、[Next] をクリックします。

警告または重大ではないエラーは、移行後に解決できます。重大なエラーまたは警告を解決するには、エラーの下にあるテキストフィールドに表示された説明を読みます。この説明には、エラーについて考えられる原因と、解決のためのヒントが示されています。

**16** 次のいずれかを実行します。

- ◆ この時点で、プロジェクトの検証だけを行っている場合は、[Verification Summary] を読み、[Finish] をクリックして、17 ページの「移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行」の指示に従って実際の移行を開始します。
- ◆ この時点で、実際の移行を行っている場合は、[Verification Summary] を読み、[Proceed] をクリックして、移行を続行します。

**17** (移行の場合のみ) エラーログおよび成功ログが表示されます。

次のセクション「移行後の作業の実行」に進んでください。

## 移行後の作業の実行

バイナリオブジェクトおよびファイルシステムを移行先サーバに移行した後、次の作業を実行します。

- キューベースの印刷を NDPS<sup>®</sup> に変換する場合は、印刷の設定を変更します。

詳細については、Novell Documentation Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/docui/index.html>)>

[Additional Documentation] > [Print Services] > [Novell Distributed Print Services] を参照してください。

- アプリケーションで移行が正しく実行されたことを確認してください。

移行後、ネットワーク製品やサービスをインストールして追加する場合は、[Novell] アイコン > [Install] の順にクリックしてサーバトップからインストールを行います。

- 移行した各ユーザに、移行先の NDS ツリーにログインするための正しい Novell Client プロパティがあることを確認してください。
- NDS ツリー内の新しいデータの場所にアクセスできるように、ユーザログインスクリプトを変更します。

詳細については、Novell Documentation Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/docui/index.html>)>

[Additional Documentation] > [Novell Clients] > [Novell Client for Windows] > [Setting Up Client Login] > [Setting Up Login Scripts] を参照してください。

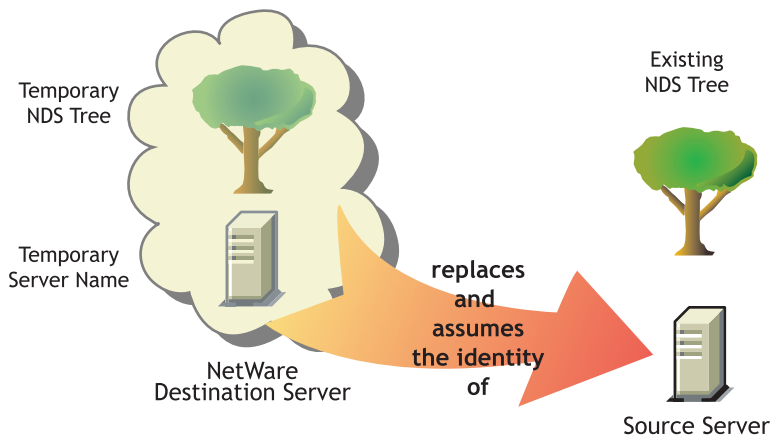
- ホームディレクトリを移行していない場合は、再割当てを行います。

# 2

## NetWare 4、5、6 からのデータの移行

NetWare<sup>®</sup> 4、NetWare 5、または NetWare 6 のサーバから別の NetWare サーバにデータを移行するときは、Novell<sup>®</sup> NetWare Migration Wizard 6 によって、移行元サーバのファイルシステムおよび NDS<sup>®</sup> データベースが、新しくインストールした移行先の NetWare サーバにコピーされます。

移行元サーバのファイルシステムおよび NDS データベースが移行先サーバに移行された後、移行元サーバが自動的に停止します。移行先サーバはリブートし、既存のネットワーク上で移行元サーバの名前と識別情報が引き継がれます。



データを移行する前に、まず一時的な NDS ツリー内に移行先の NetWare サーバをインストールする必要があります。一時的なツリーとは、サーバが 1 つだけ格納されているツリーです。このサーバは、NetWare の基本インストールを備えていて、追加の製品 (SMS<sup>™</sup> や他のデフォルトの製品を除く) がインストールされていないサーバです。

NetWare 4、NetWare 5、NetWare 6 からデータを移行するには、次の作業を順番に実行します。

1. 22 ページの「システム要件とソフトウェア要件の適合」
2. 25 ページの「Migration Wizard の実行」
3. 32 ページの「移行後の作業の実行」

## システム要件とソフトウェア要件の適合

### ワークステーションを準備する

ワークステーションが次の条件を満たしていることを確認してください。

- ❑ 50MB 以上の使用可能なディスク容量がある Windows 98 または Windows NT 4/2000 ワークステーション。
  - ◆ Windows 98 ワークステーションでは、Novell Client™ for Windows 98 バージョン 3.3 以降を実行している必要があります。  
重要：NetWare Migration Wizard 6 は、Windows 95 ワークステーションでは実行できません。
  - ◆ Windows NT 4/2000 ワークステーションでは、Novell Client for Windows NT バージョン 4.8 以降を実行している必要があります。
- ❑ NetWare 4 から移行する場合は、IPX™ プロトコルが Novell Client ワークステーションで設定されていること。
- ❑ パフォーマンスを向上するには、移行元サーバ、移行先サーバ、およびクライアントワークステーションを共通の LAN セグメント上で実行することを推奨します。

### 移行元サーバを準備する

移行元サーバは、移行先の NetWare サーバにコピーされるファイル、ボリューム、および NDS オブジェクトが格納されている NetWare サーバです。有効な移行元サーバは、NetWare 4.11、4.2、5.0、5.1、または 6 を実行しているサーバです。

- ❑ ConsoleOne™ を使用し、移行元サーバとそのファイルシステムに対してスーパーバイザ権があることを検証します。
- ❑ 最新の NetWare Support Pack を使用して移行元サーバを更新します。

最新の Support Pack は、[Consolidated Support Pack ホームページ \(http://support.novell.com/csp/csplist.html\)](http://support.novell.com/csp/csplist.html) から入手できます。

- (状況によって実行)NetWare 4 からデータを移行する場合、移行元サーバでは、コピーされるすべてのボリュームに対して、ロングネームスペースがサポートされていることを確認してください。

NetWare 4.11 または NetWare 4.2 のボリュームにロングネームスペースのサポートを追加するには、サーバコンソールで「**LOAD LONG**」と入力し、次に「**ADD NAME SPACE LONG TO volumename**」と入力します。

- DSREPAIR をロードし、次の 3 つのオプションを実行します。

- ◆ [Unattended Full Repair]
- ◆ [Time Synchronization]
- ◆ [Report Synchronization Status]

これらのオプションが、エラーなしに終了したことを確認してください。

- NDS およびすべてのデータをバックアップします。

## 移行先サーバを準備する

移行先サーバは、移行元サーバからデータを受け取る新しいコンピュータです。移行先サーバを、一時的なツリーにインストールする必要があります。

移行元サーバから移行先サーバにデータが移行された後、移行先サーバはリブートします。このとき Migration Wizard により、移行先サーバの AUTOEXEC.NCF ファイルが自動的に変更され、移行元サーバの名前と内部 IPX™ 番号 / サーバ ID が書き込まれます。これらを手動で変更する必要はありません。

有効な移行先サーバは、NetWare 5.0、5.1、または 6 を実行しているサーバです。Migration Wizard では、Netware 4 サーバへの移行は実行できません。

移行先サーバに NetWare オペレーティングシステムをインストールする前に、次の作業を確認してください。

- ConsoleOne を使用し、移行先サーバとそのファイルシステムに対してスーパーバイザ権があることを検証します。
- 一時的な NDS ツリー名を使用して、一時的な NDS ツリーを作成します。

重要: 一時的な名前および一時的な NDS ツリー名は、移行元サーバの名前または NDS ツリー名と同じ名前にしないでください。同じ名前にすると、移行後に、移行先サーバが移行元サーバの識別情報を引き継ぎません。

- ❑ インストール時には、移行元サーバのボリュームと同じかそれより大きいサイズのボリュームを移行先サーバに作成します。

移行先サーバの各ボリューム名は、移行元サーバの各ボリューム名と同じにする必要があります。

Migration Wizard では、圧縮ボリュームの移行も行えます。圧縮ボリュームを非圧縮ボリュームに移行する場合、そのボリュームは移行時に圧縮解除されます。移行元ボリュームが圧縮解除されたときに必要な容量が、移行先の非圧縮ボリュームにあることを確認してください。

- ❑ NetWare 4 から移行する場合は、IPX プロトコルをインストールして設定します。

移行を実行するには、IPX プロトコルが移行先サーバにバインドされている必要があります (移行が完了すれば、IPX は削除できます)。

重要: 移行元サーバの IP アドレスは移行されません。IP アドレスの変更の詳細については、[28 ページの手順 3](#) を参照してください。

- ❑ 移行先サーバに、使用する NetWare オペレーティングシステムをインストールします。
  - ◆ NetWare 5 のインストール方法については、『[NetWare 5 概要とインストール](http://www.novell.com/documentation/japanese/nw5/docui/index.html)』(<http://www.novell.com/documentation/japanese/nw5/docui/index.html>) を参照してください。

NetWare 5 のインストール時には、[Additional Products and Services] 画面で [New Server] オプションを選択し、SMS 以外の製品のチェックボックスをすべてオフにします。
  - ◆ NetWare 5.1 のインストール方法については、『[NetWare 5.1 インストールガイド](http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/docui/index.html)』(<http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/docui/index.html>) を参照してください。

NetWare 5.1 のインストール時には、[インストールオプション] 画面でカスタムオプションを選択し、SMS を除く、選択解除可能な製品のチェックボックスをすべてオフにします。選択解除できないデフォルトの製品については、そのまま問題ありません。
  - ◆ NetWare 6 のインストール方法については、『[NetWare 6 概要とインストール](#)』を参照してください。

NetWare 6 のインストール時には、[マイグレーション準備] サーバオプションを必ず選択します。次に、移行元サーバの

データを格納するために必要な容量が移行先サーバにあるかどうかを検証できるように、カスタムオプションを選択します。

次のセクション「**Migration Wizard の実行**」に進んでください。

## Migration Wizard の実行

- 1 **Novell Software Downloads Web サイト** (<http://www.novell.com/download>) の「NetWare」セクションから、NetWare Migration Wizard 6 をダウンロードしてインストールします。
- 2 インストールした場所から Migration Wizard を実行します。  
デフォルトでは、インストールプログラムによって [スタート] メニュー > [プログラム] > [Novell] > [Netware Migration Wizard] > [NetWare Migration Wizard] に Migration Wizard がインストールされます。
- 3 初期画面の説明を読み、[OK] をクリックします。
- 4 [Create a New Project] > [OK] の順にクリックします。
- 5 [NetWare 4]、[NetWare 5]、または [NetWare 6] のいずれか > [OK] の順にクリックします。
- 6 [View Setup Tasks] ボタンをクリックします。  
これにより、デフォルトの Web ブラウザが起動し、NetWare Migration Wizard 6 のオンラインヘルプが開きます。
- 7 「Migrating Data from NetWare 4(または 5、6)」を参照し、「**システム要件とソフトウェア要件の適合**」に記載されているシステムおよびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。ブラウザを閉じます。
- 8 [Next] をクリックします。
- 9 プロジェクトに名前を付け、保存する場所を選択し、[Next] をクリックします。  
デフォルトでは、C:\Program Files\Novell\NetWare Migration Wizard にすべてのプロジェクトが保存されます。
- 10 移行元サーバのある NDS ツリーを選択し、[Next] をクリックします。
- 11 NDS ツリーから移行元サーバを選択し、[Next] をクリックします。
- 12 移行先サーバのある NDS ツリーを選択し、[Next] をクリックします。

- 13 移行先の NDS ツリーから移行先サーバを選択し、[Next] をクリックします。
- 14 プロジェクトを保存し、[Project Window] にアクセスするには、[Create] をクリックします。  
[Project Window] が表示されます。

次のセクション「**ボリュームのコピー**」に進んでください。

## ボリュームのコピー

- 1 [Project Window] で、[Copy Volumes] をクリックします。

マイグレーションウィザードでは、ファイルのコピーを開始する前に、ディレクトリとファイルのトラスティがバックアップされ、移行元サーバおよび移行先サーバ上のファイルに保存されます。NDS の移行が完了すると、このファイルからトラスティが復元され、移行先サーバに格納されます。

すべてのボリュームを一度にコピーする必要はありません。現在コピーする必要があるボリュームだけを選択できます。残りのボリュームは、後でプロジェクトファイルを再度開いてコピーすることができます。開いているファイルは移行されないので注意してください。

**重要:** ボリュームを複数回に分けてコピーする場合は、最後のコピー時に、これまでコピーしたすべてのボリュームを選択して [Cancel] をクリックします。この操作を行わないと、最後にコピーした各ボリュームに対してだけ、トラスティ割り当てが復元されます。

- 2 テキストフィールドから各ボリューム名を選択し、[Yes] または [No] をクリックします。

どのボリュームもコピーしない場合は、すべてのボリュームに対して [No] を選択し、[Next] をクリックして、**28 ページの「環境設定ファイルの編集」**に進みます。1つ以上のボリュームに対して [Yes] を選択した場合は、**手順 3**に進みます。

ボリュームが大きい場合、LAN 接続の速度が遅い場合、または移行先サーバの異なるフォルダに既存のディレクトリを格納してデータを再設定する場合は、バックアップテープを使用してボリュームをコピーすることを検討してください。

**重要:** テープバックアップを使用する場合、NetWare オペレーティングシステムを上位バージョンにアップグレードするときには、移行元サーバの標準 SYS: ディレクトリを移行先サーバに復元しないでください。SYS:SYSTEM や SYS:PUBLIC のような標準 SYS: ディレクトリは、NetWare のインストール時に作成されています。

既存のデータだけを新しいハードウェアに移行し、NetWare のバージョンに変更がない場合は、移行元サーバの標準 SYS: ディレクトリを移行先サーバに復元します。

テープバックアップを使用する場合は、[Select Volumes to Copy] 画面ですべてのボリュームに対して [No] を選択し、[Next] をクリックして、28 ページの「環境設定ファイルの編集」に進みます。

- 3 移行元サーバの各 SYS: ディレクトリを移行先サーバの SYS:MIG ディレクトリにコピーするかどうかを指定し、[Next] をクリックします。

Migration Wizard では、移行先サーバの SYS: ディレクトリが上書きされることはありません。移行元サーバの各 SYS: ディレクトリを移行することを選択した場合は、移行先サーバの SYS:SYS.MIG ディレクトリに移行されます。

移行元サーバの SYS: ディレクトリに、移行先サーバでも使用するファイルが含まれている場合は、NDS の移行の完了後、SYS:SYS.MIG ディレクトリから、移行先サーバの適切な SYS: ディレクトリに必要なファイルをコピーします。

このディレクトリに NLM プログラムがあるアプリケーションについては、移行後に再インストールする必要があります。

- 4 移行元サーバと移行先の NDS ツリーで重複するファイル名の処理方法を指定します。次のいずれかを選択し、[Next] をクリックします。
  - ◆ [Don't Copy Over Existing Files]
  - ◆ [Copy the Source File If It Is Newer]
  - ◆ [Always Copy the Source File]

- 5 ボリュームのコピー方法を指定し、[Next] をクリックします。

次の 2 つのオプションから選択できます。

- ◆ [Copy volumes with users logged in]
- ◆ [Disable login]

マイグレーションウィザードでは、開いているファイルはコピーされません。ユーザログインを無効にすると、ファイルのコピー中は、他のユーザはネットワークへログインして、ファイルを開くことはできません。

- 6 移行元ツリーおよび移行先ツリーのパスワードを入力し、[Next] をクリックします。

- 7 プロンプトが表示された場合は、重大なエラーまたは警告を解決し、[Next] をクリックします。
- 8 ファイルシステムを移行先の NDS ツリーにコピーするには、[Migrate] をクリックします。
- 9 エラーログおよび成功ログを確認し、[Done] をクリックします。

次のセクション「**環境設定ファイルの編集**」に進んでください。

## 環境設定ファイルの編集

- 1 [Project Window] で、[Edit Configuration Files] をクリックします。  
Migration Wizard では、移行先サーバの .NCF ファイルや .CFG ファイルを変更できます。これらのファイルには、デフォルトの LOAD ステートメントとパラメータが含まれています。

**重要:** AUTOEXEC.NCF を編集する場合は、必ず NDS データベースを移行する前にファイルを閉じます。

- 2 テキストボックスで、編集する環境設定ファイルを選択し、[Edit File] をクリックします。
- 3 移行元サーバの環境設定ファイルからコマンドをコピーして、移行先サーバにある対応する環境設定ファイルに貼り付けます。終了したら、[Save] > [Close] をクリックします。

移行先サーバの IP アドレスを変更して、移行元サーバの IP アドレスと同じにする場合は、環境設定ファイルを編集し、IP アドレスを変更します。対象となるファイルは、AUTOEXEC.NCF および SYS:ETC¥HOSTS の 2 つです。

移行元サーバの IP アドレスをコピーして、移行先サーバの AUTOEXEC.NCF ファイルに貼り付けます (この操作は、AUTOEXEC.NCF に IP LOAD ステートメントおよび BIND ステートメントが記述されている場合にだけ行います)。さらに移行先サーバのサーバコンソールから、SYS:ETC¥HOSTS ファイルに記述されている IP アドレスを変更する必要があります。移行先サーバの元の名前を検索します。

IP アドレスの割り当てに INETCONFIG を使用する場合は、移行が完了してから IP アドレスを変更します。

- 4 (状況によって実行) 設定済みのタイムソース (TIMESYNC.CFG) を使用する場合は、移行元サーバの TIMESYNC.CFG ファイルから時刻同期情報をコピーして、移行先サーバの TIMESYNC.CFG ファイルに貼り付けます。

5 [Compare Configurations] ダイアログボックスを閉じます。

次のセクション「**NDS の移行の開始**」に進んでください。

## NDS の移行の開始

- 1 [Project Window] で、[Begin NDS Migration] をクリックします。
- 2 移行しないボリュームをすべてバックアップし、次の作業を完了してから、移行を続行します。
  - すべてのボリュームデータが正しく移行されたことを確認します。
  - ファイルコピー時に発生した重大なエラーをすべて解決します。
  - 移行元の NDS ツリー内にある各サーバの時刻が同期していて、NDS が同期化されていることを確認します。詳細については、**31 ページの手順 2**を参照してください。

3 [Next] をクリックします。

- 4 ライセンスディスクを挿入し、ライセンスに関するファイルへのパスを検索し、入力してから、[Next] をクリックします。

MLA がある場合は、ライセンスディスクを挿入する代わりに、MLA を選択することもできます。

- 5 [Yes] または [No] を選択して、移行元サーバのスキーマを更新します。

移行元サーバのスキーマが更新され、移行先サーバにインストールされるデフォルトのアプリケーションの NDS クラスが取り込まれます。

デフォルトで [Yes] ラジオボタンがオンになっていますが、[No] を選択すると、移行元と移行先のスキーマが比較されます。この比較を利用すると、移行の準備をするときにスキーマをどのように拡張するかを判断できます。

- 6 続行する前に、**31 ページの手順 2**に説明されている DSREPAIR の手順を実行したかどうかを確認します。これは移行元サーバを含む NDS ツリーが正しく機能していることを検証するため手順です。ツリーの状態を確認し、[Yes] または [No] をクリックして、[Next] をクリックします。

ツリーの状態を検証する DSREPAIR を実行しなくても、Migration Wizard の処理は続行できます。ただし、ツリーが不適切な状態で移行を開始すると、移行が正しく完了しない場合があります。

- 7** NetWare 5、NetWare 6、または Border Manager を実行する NetWare 4 から移行する場合は、NICI 環境設定ファイルを、移行元サーバから移行先サーバにコピーし転送するように要求されます。画面の指示に従い、NICI 設定が完了したら、次の手順に進みます。

**重要:** NDS のロード中または NICI ファイルのコピー中に NICI エラーが発生した場合は、最初に移行先サーバに PKI.NLM がロードされるかどうかを確認します。PKI.NLM がロードされない場合は、**55 ページの「NICI エラー」**を参照してください。

- 8** 移行元サーバおよび移行先サーバに対するユーザ接続 (自分以外) をすべて削除し、[Next] をクリックします。
- 9** 移行元ツリーおよび移行先ツリーのパスワードを入力し、[Next] をクリックします。
- 10** [Migrate NDS Verification Results] 画面で重大なエラーまたは警告を解決し、[Next] をクリックします。
- 11** [Migrate] をクリックし、NDS の移行を開始します。

この移行プロセスが終了すると、移行元サーバが停止し、移行先サーバがリポートして、移行元サーバの名前と識別情報が移行先サーバに引き継がれます。

Migration Wizard では、移行先サーバの AUTOEXEC.NCF ファイル内にある、次の項目が自動的に変更されます。

- ◆ ファイルサーバ名が、移行元サーバの名前に変更されます。
- ◆ タイムゾーンが、移行元サーバの AUTOEXEC.NCF ファイルに記述されているタイムゾーンに変更されます。
- ◆ サーバ ID が、移行元サーバの AUTOEXEC.NCF ファイルに記述されている IPX の内部ネット値またはサーバ ID に変更されません。
- ◆ デフォルトのタイムサーバのタイプが、移行元サーバの AUTOEXEC.NCF ファイルに記述されている値に変更されます。
- ◆ バインダリコンテキストが、移行元サーバの AUTOEXEC.NCF ファイルに記述されているバインダリコンテキストに変更されます。

**重要:** 移行時には、移行元サーバの時刻同期情報は自動的に移行されません。

- 12** エラーログおよび成功ログを確認し、[Done] をクリックします。

エラーログを使用すると、移行時に発生したすべてのエラーを確認できます。エラーが発生していた場合は、成功ログを使用して、エラーが発生するまで移行がどの程度進行したかを確認します。

NDS の移行に失敗した場合は、56 ページの「NDS の移行」を参照して、各サーバを元の設定に復元する方法を確認してください。

- 13 移行先として指定したサーバを調べ、このサーバを再起動して、移行元サーバの名前が引き継がれていることを確認します。
- 14 ワークステーションをリブートし、移行先として指定したサーバにログインします。

ログインできない場合は、52 ページの「ワークステーションからサーバへの接続」を参照してください。

次のセクション「NDS の移行の終了」に進んでください。

## NDS の移行の終了

- 1 [Project Window] で、[Finish NDS Migration] をクリックします。
- 2 [Continue NDS Migration] 画面の説明を読み、次のことを確認してください。
  - ◆ 移行先として指定したサーバが再起動し、移行元サーバの名前および識別情報が引き継がれていること
  - ◆ ライセンスがインストールされていること
  - ◆ ツリー内のすべてのサーバに対して、NDS が同期されていること

NDS の同期ステータスを確認するには、サーバコンソールで「DSREPAIR」と入力し、[Report Synchronization Status] オプションおよび [Time Synchronization] オプションを実行します。

移行先サーバに読み書き可能レプリカまたはマスタレプリカがない場合は、NDS ツリー内の他のサーバのうち、いずれかのレプリカを持つサーバから DSREPAIR を実行し、NDS の同期を調べる必要があります。

- 3 [Yes] または [No] をクリックして手順 2 での作業が完了したことを確認し、[Next] をクリックします。
- 4 移行元ツリーのパスワードを入力し、[Next] をクリックします。
- 5 警告またはエラーを解決し、[Next] をクリックします。
- 6 NDS の移行を終了するには、[Continue] をクリックします。

この段階で、ファイルのトラスティが復元され、ツリー内のボリュームオブジェクトが更新されます。

- 7 エラーログおよび成功ログを確認し、[Done] をクリックして、現在のプロジェクトを閉じます。

次のセクション「移行後の作業の実行」に進んでください。

## 移行後の作業の実行

- 1 移行先サーバで DSREPAIR を実行し、[Unattended Full Repair] を選択します。
- 2 ユーザ情報が正しく移行されたことを確認します。
- 3 ボリュームの各 SYS: ディレクトリ (SYSTEM、PUBLIC、MAIL、ETC、および NETBASIC) に関連するファイルまたは NLM プログラムを含むアプリケーションをすべて再インストールします。

重要: 移行先サーバは移行元サーバの識別情報によって更新されるため、これらのアプリケーションも含めて、移行先サーバ上の NDS オブジェクトはすべて削除され、移行元サーバ上の NDS オブジェクトに置き換えられます。ただし、移行先サーバのアプリケーションに関連する NLM プログラムは削除されません。アプリケーションを管理するには、対応する NDS オブジェクトが必要であるため、アプリケーションの NDS オブジェクトを NDS ツリーに復元する場合は、アプリケーションを再インストールする必要があります。

移行先サーバで NetWare 5.1 を実行していた場合、SMS、LDAP、Novell Certificate Server、または NetWare Management Portal に関する警告が表示されることがあります。これらの警告は無視し、NDS を移行した後でアプリケーションを再インストールします。

これらのネットワーク製品およびサービスを再インストールするには、NetWare Operating System CD にある NetWare Deployment Manager ユーティリティ (NWDEPLOY.EXE) を使用するか、GUI インタフェースで、サーバトップの Novell アイコンをクリックします。

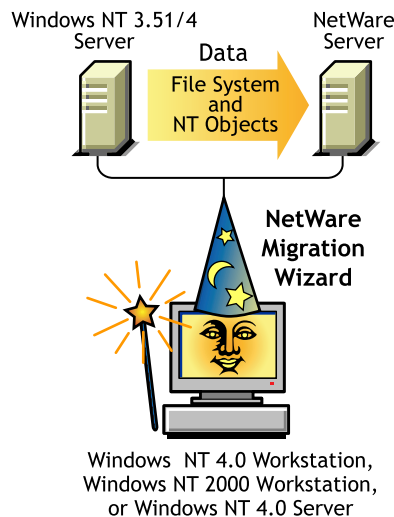
- 4 最新の NetWare Support Pack をインストールします。

これにより、再インストールするアプリケーションの最新コードを取得できます。最新の Support Pack は、Novell のサポート Web サイト (<http://www.support.novell.com/misc/patlst.htm>) で入手できます。
- 5 DSREPAIR を [Time Synchronization] オプションで実行し、移行元サーバがその他のサーバと同期されていることを確認します。

# 3

## Windows NT からのデータの移行

Novell® NetWare® Migration Wizard 6 では、ユーザおよび関連するファイルのアクセス権の移行、パスワードの割り当て、指定した NDS® ツリーへの NT ファイルシステムの移行など、主要な作業が自動化されています。このため、各作業を実行するためのユーティリティを個別に選択する必要はありません。



Migration Wizard では多くの作業が自動化されていますが、開始する前に次の点を検討する必要があります。

最初に次の質問に回答して、移行の計画を立てます。

- ◆ どの NT ユーザがどの NT ファイルやディレクトリにアクセスし、そのファイルやディレクトリはどこにあるか。

この情報は、最初に移行する NT サーバ、および同時に移行するサーバの数を決定する場合に利用します。ユーザとグループを移行するときは、ユーザオブジェクトの移行と同時に、そのユーザやグループがアクセス権を持つファイルおよびディレクトリをすべて移行できます。

- ◆ どの NetWare サーバおよびボリュームに NT フォルダを移行するか。

移行先の NDS ツリー内で、どのサーバおよびボリュームが各 NT フォルダを受け取るかを検討する必要があります。必要に応じて、各 NT フォルダに対して異なる場所を選択することができます。効率よく計画を立てるには、移行先 NDS ツリー内の NetWare サーバのファイル構造を十分に理解しておく必要があります。

- ◆ どの NT ユーザおよびグループを移行するか。移行先 NDS ツリー内のどの NDS コンテナに移行するか。

移行する NT ユーザおよびグループを決定し、次に移行先 NDS ツリーで NT ユーザとグループに対して個別にコンテナを作成する必要があるかどうかを決定します。[Project Window] で移行をモデル化するとき、NDS の部門を右クリックすると、追加の NDS コンテナを必要な数だけ作成できます。

- ◆ 既存の NDS ユーザオブジェクトは、NT ドメイン内で同じユーザを表しているか。

すでに NDS アカウントを持っている NT ユーザがいるかどうかを確認します。移行時に、NDS ツリーで重複したユーザ名を検索するかどうかを指定します。Migration Wizard で同じユーザ名が検出されると、テーブルに表示されます。このテーブルで、表示された NT ユーザを NDS ユーザオブジェクトとマージするかどうかを指定できます。

- ◆ NetWare 上で実行できないアプリケーションがある場合は、どのように処理するか。

Migration Wizard は、アプリケーションを移行しません。移行後にアプリケーションを再インストールする必要があります。NetWare 上で実行できないアプリケーションがある場合は、特定の NT サーバを移行せずに残しておき、これをアプリケーションサーバとして使用できます。

- ◆ ユーザおよびグループに関する情報をどのように移行するか。プレートオブジェクトまたは ZENworks™ ユーザポリシーパッケージのいずれか、あるいはその両方を使用するか。

詳細については、[36 ページの「プレートオブジェクトを作成する」](#) および [37 ページの「ZENworks ユーザポリシーパッケージを作成する」](#) を参照してください。

- ◆ 信頼されているドメインはあるか。

信頼されているドメインがある場合は、移行の完了後に、適切な NT ユーザとグループに対して、このドメインの権利を再度割り当てる必要があります。信頼されているドメインの権利を再度割り当てるには、ConsoleOne™ を使用します。

移行の計画が完了したら、NT の移行を開始するための準備を行います。次の作業を順番に実行します。

1. 35 ページの「システム要件とソフトウェア要件の適合」
2. 36 ページの「準備作業の実行」
3. 39 ページの「マイグレーションウィザードの実行」
4. 42 ページの「移行プロジェクトのモデル化」
5. 45 ページの「移行プロジェクトの検証」
6. 46 ページの「移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行」
7. 50 ページの「移行後の作業の実行」

## システム要件とソフトウェア要件の適合

Migration Wizard は、データの移行元である Windows NT 4 サーバ、または Windows NT 4 ワークステーションや Windows 2000 ワークステーションのいずれからでも実行できます。ただし、Migration Wizard はワークステーション上よりもサーバ上で実行するほうが、移行にかかる時間が短くなります。これは、ファイルのコピーが、クライアントワークステーションを介さずに、直接サーバ対サーバで行われるためです。

次の NT の権利があることを確認してください。

- ◆ NT ドメインおよび PDC のレジストリに対する書き込み / 変更権
- ◆ 移行するすべてのフォルダおよびファイルに対する読み込み権
- ◆ 移行先の NetWare サーバに対する管理権を持つユーザとして NT ドメインにログインできること

移行先の NetWare サーバに対するスーパーバイザ権を持っていることを確認してください。

次のテーブルは、Migration Wizard の実行に使用するワークステーションまたはサーバに関するハードウェア要件およびソフトウェア要件を示しています。

プラットフォーム	ハードウェア	ソフトウェア
Windows NT 4 および Windows NT 2000 ワークス テーション	Windows NT 4/2000 ワーク ステーションの最低ハー ドウェア要件	Novell Client™ for Windows NT/2000(バージョン 4.8 以降)  Microsoft* Service Pack 6 以降
Windows NT 4 サーバ	Windows NT 4 の最低ハー ドウェア要件	Novell Client for Windows NT バージョン 4.8 以降  Microsoft Service Pack 6 以降

Microsoft Service Pack のバージョンを調べるには、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、テキストフィールドに「winver」と入力して、[OK] をクリックします。Microsoft Service Pack のダウンロードおよびインストールについては、[ZDNet の Web サイト \(http://updates.zdnet.com/products/pr\\_13616.htm\)](http://updates.zdnet.com/products/pr_13616.htm) を参照してください。

Novell Client の現在のバージョンを調べるには、ワークステーションの N アイコンを右クリックし、[Novell Client のプロパティ] > [クライアント] の順にクリックします。Novell Client のダウンロードについては、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://www.novell.com/download\)](http://www.novell.com/download) を参照してください。

次のセクション「**準備作業の実行**」に進んでください。

## 準備作業の実行

### テンプレートオブジェクトを作成する

最初の準備作業では、NT ユーザを移行先の NDS ツリーに移行するときに、テンプレートオブジェクトを使用するかどうかを指定します。

テンプレートオブジェクトを使用すると、移行時に、NT ユーザに対して追加の NDS ユーザ属性を定義できます。テンプレートオブジェクトは、Windows NT ドメインにない追加属性を定義する場合に特に便利です。NT ユーザの NDS ツリーへの移行と、移行後の管理を容易に行えるようになるため、テンプレートオブジェクトの使用を推奨します。

**重要:** ホームディレクトリを移行するには、テンプレートオブジェクトを使用する必要があります。

テンプレートオブジェクトのプロパティと NT ポリシーの間に矛盾があると、ほとんどの場合、テンプレートオブジェクトのプロパティが優先されます。たとえば、NT ポリシーでの Jeff というユーザに対して、最小パスワード長が 7 文字に指定されて、テンプレートオブジェクトでは最小パスワード長が 9 文字に指定されている場合、Jeff のオブジェクトが移行されると、NDS ではパスワード長が 9 文字のオブジェクトが作成されます。

テンプレートオブジェクトで定義できる追加の NDS 属性を調べるには、**ConsoleOne** を実行し、テンプレートオブジェクトをダブルクリックします。これにより、既存のプロパティがすべて表示されます。

すべての NT オブジェクトについて、姓、氏名、および説明は必ず移行され、これらに対応するテンプレートオブジェクトのプロパティは上書きされます。

テンプレートオブジェクトを使用する場合は、**ConsoleOne™** で [ファイル] > [新規作成] > [オブジェクト] > [テンプレート] の順にクリックしてテンプレートオブジェクトを作成します。

## ZENworks ユーザポリシーパッケージを作成する

次の準備作業では、ZENworks™ ユーザポリシーパッケージを使用するかどうかを指定します。

ZENworks ユーザポリシーパッケージを使用すると、ユーザのデスクトップの外観と機能を制御できます。**Migration Wizard** は、グループに対してだけ ZENworks ユーザポリシーパッケージを関連付けます。

ZENworks を使用すると、特定の NDS グループに関連付けられているユーザのすべてのワークステーションに対して、デスクトップの外観を決定することができます。ZENworks ユーザポリシーパッケージを NDS グループに関連付けると、ポリシーパッケージで適用したプロパティによって、ワークステーションの属性を制御できます。これを行うには、そのグループのユーザに対して、ワークステーションの背景を設定し、コントロールパネルへの権限を制限して、ワークステーションのサウンドおよび配色パターンを変更します。

注: Migration Wizard は、Microsoft NT 3.51 の Roaming プロファイルを移行しません。

ZENworks を使用する場合は、移行先の NDS ツリーに ZENworks Full 2.0 をインストールします。ZENworks Full Starter Pack は、NetWare 5.0 または 5.1 の製品 CD からインストールできます。ZENworks 3.0 はサポートされていません。

ZENworks ユーザポリシーパッケージを作成するには、次を実行します。

- 1 NetWare アドミニストレータで、ツリービューにある NDS 部門を右クリックして、[Create] > [Policy Package] の順にクリックします。

NT ネットワークにあるワークステーションのタイプ (Windows NT/2000、Windows 95/98、またはその両方) に基づいて、WINNT-2000 ユーザポリシーパッケージを作成するか、WIN 95-98 ポリシーパッケージを作成するか、あるいはその両方を作成するかを決定します。

- 2 ConsoleOne で、ツールバーのユーザポリシーパッケージアイコンをクリックします。どのアイコンかわからない場合は、アイコンの上にカーソルを移動すると、短い説明が表示されます。

ZENworks のインストールおよび使用に関する詳細については、Novell 製品マニュアルの Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/japanese>) を参照してください。

## ワークステーションを登録する

ワークステーションから Migration Wizard を実行する場合は、移行するドメインにそのワークステーションが登録されていることを確認してください。正しく登録されている場合は、**39 ページの「マイグレーションウィザードの実行」**に進みます。

ワークステーションが登録されているドメインを変更する場合は、Windows NT または Windows 2000 に対して次の作業を実行します。

**重要 :** Migration Wizard は、Windows 95 ワークステーションでは実行できません。

### Windows NT ワークステーション

- 1 ワークステーションで、[ネットワークコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [識別] タブをクリックし、[変更] > [ドメイン] の順にクリックします。
- 3 適切なドメインを指定し、管理者の名前とパスワードを入力してから、[OK] をクリックします。
- 4 ワークステーションをリブートし、Migration Wizard を再起動します。次のセクション「**マイグレーションウィザードの実行**」に進んでください。

### Windows 2000 ワークステーション

- 1 ワークステーションで、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [ネットワーク ID] タブをクリックします。

- 3 [プロパティ] をクリックし、コンピュータ名と適切なドメインを入力してから、[OK] をクリックします。
- 4 ワークステーションをリブートし、Migration Wizard を再起動します。次のセクション「**マイグレーションウィザードの実行**」に進んでください。

## マイグレーションウィザードの実行

- 1 **Novell Software Downloads Web サイト** (<http://www.novell.com/download>) > [NetWare] > [Novell NetWare Migration Wizard 6] からダウンロードするか、NetWare 6 Operating System CD を使用して、Migration Wizard をインストールします。ダウンロードおよびインストールの指示に従います。
- 2 [スタート] メニューから [プログラム] > [Novell] > [NetWare Migration Wizard] > [NetWare Migration Wizard] の順にクリックして、Migration Wizard を起動します。
- 3 [Create a New Project] > [OK] の順にクリックします。
- 4 [Microsoft Windows NT 3.51/4 Server] > [OK] の順にクリックします。
- 5 [View Setup Tasks] ボタンをクリックします。  
これにより、デフォルトの Web ブラウザが起動し、NetWare Migration Wizard 6 のオンラインヘルプが開きます。
- 6 オンラインヘルプの「**システム要件とソフトウェア要件の適合**」に記載されているシステム要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。ブラウザを閉じます。
- 7 [Next] をクリックします。
- 8 灰色で表示されているテキストフィールドに示された NT ドメインが、移行するドメインであることを確認します。  
Migration Wizard では、ワークステーションまたはサーバが属する NT ドメインが自動的に表示されます。  
ワークステーションから Migration Wizard を実行する場合は、ワークステーションが登録されているドメインを変更できます。これを行うには、Migration Wizard を終了して、**38 ページの「ワークステーションを登録する」**に説明されている手順に従います。
- 9 移行プロジェクトに名前を付け、保存する場所を選択して、[Next] をクリックします。

デフォルトでは、C:\Program Files\Novell\NetWare Migration Wizard にプロジェクトが保存されます。

- 10 ドロップダウンリストから移行先の NDS ツリーを選択し、[Next] をクリックします。

移行先の NDS ツリーとは、NT データが移行される NDS ツリーです。

NDS ツリーにログインしていない場合は、NDS ツリー名はドロップダウンリストに表示されません。この場合、[Browse] ボタンをクリックして、必要な NDS ツリーにログインします。NDS ツリーにログインすると、その NDS ツリー名がドロップダウンリストに自動的に表示されます。

- 11 NT ドメインと移行先の NDS ツリーで同じ名前をもつユーザオブジェクトを検索するかどうかを決定し、[Yes] または [No] をクリックします。

- 12 [Create] をクリックし、移行プロジェクトを作成して保存します。

プロジェクトを作成して保存すると、プロジェクトの成功ログとエラーログを含むファイルが作成されます。これらのログには、移行時の処理状態の詳細が示されます。

- 13 (状況によって実行) 手順 11 で [Yes] をクリックした場合は、**手順 13a** に進んでください。[No] をクリックした場合は、残りの手順を実行せずに、**42 ページの「移行プロジェクトのモデル化」**に進んでください。

- 13a [Browse] ボタンをクリックし、移行先の NDS ツリーの NDS コンテナを選択します。

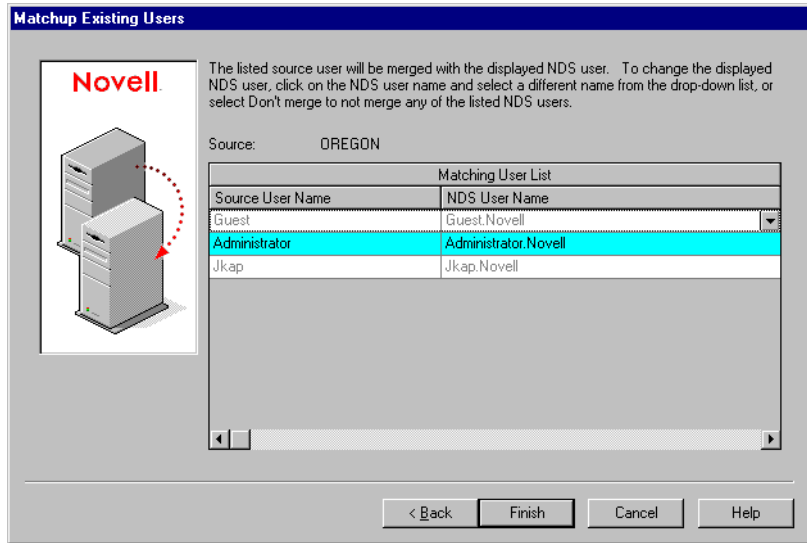
- 13b ツリーを参照して NDS コンテナを選択し、[OK] をクリックします。

- 13c 重複したユーザ名の検索を開始するには、[Next] をクリックします。

- 13d NDS ユーザと同じ名前を持つ NT ユーザに対する処理方法を指定します。

次の画面は、Migration Wizard に表示されるユーザ名テーブルの例です。この画面を確認します。変更しない場合は、表示されている NDS ユーザが、同じ行の NT ユーザと自動的にマージされます。

図 3 NT ユーザと重複した NDS ユーザのマージ



一覧表示されている、各 NT ユーザについて、次のオプションを選択できます。

- ◆ NT ユーザを、表示された NDS ユーザとマージする。テーブルに表示された NT ユーザをそのまま残しておき、次の NT ユーザへ進みます。
- ◆ NT ユーザを、別の NDS ユーザとマージする。NDS ユーザ名の横にある矢印をクリックすると、その行の NT ユーザと同じユーザ名を持つすべての NDS ユーザ（コンテキストを含む）のドロップダウンリストが表示されます。いずれかの NDS 名を選択し、表示されている次の NT ユーザに進みます。
- ◆ NT ユーザを、対応するどの NDS ユーザともマージしない。NDS ユーザを右クリックし、[Don't Merge] をクリックします。ドロップダウンリストに表示されるすべての NDS ユーザが、その行の NT ユーザと同一人物でない場合は、このオプションを選択します。

**13e** 表示されている各 NT ユーザに対してオプションを選択したら、[Finish] をクリックします。

[Project Window] が開きます。NDS ユーザオブジェクトとマージするように選択した NT ユーザは、ドロップしたオブジェクトと同様に、移行先の NDS ツリーに自動的に表示されます。

次のセクション「移行プロジェクトのモデル化」に進んでください。

# 移行プロジェクトのモデル化

ほとんどの作業は [Project Window] で行います。[Project Window] では、NT のユーザオブジェクトおよびグループオブジェクトを NDS コンテナにドラッグアンドドロップしたり、NT フォルダおよびボリュームを移行先の NDS ツリー内にある任意のボリュームまたはフォルダにドラッグアンドドロップできます。

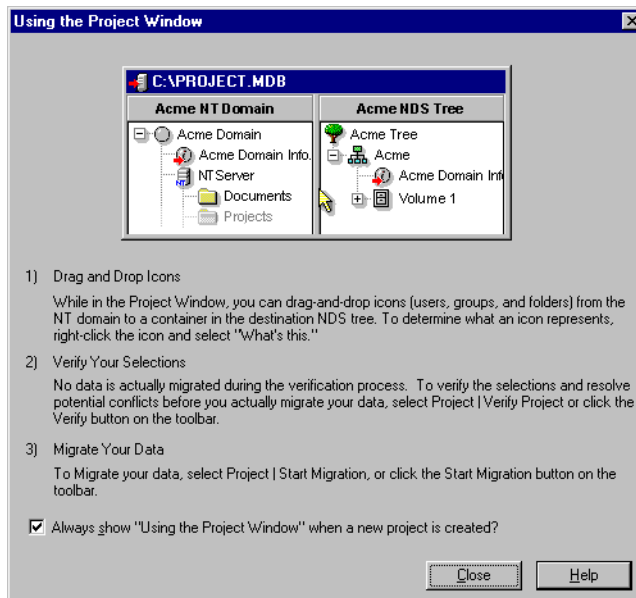
[Project Window] では、実際の移行を開始する前に、さまざまな移行のシナリオをモデル化することができます。NT ドメインまたは移行先の NDS ツリーには、影響を与えません。[Project Window] での移行計画はすべて、オフラインで行います。つまり、[Project Window] で項目の移動や作成を行っても、移行を開始するまで、実際には移動または作成されません。

ヒント：ドル記号 (\$) で終わる NT の共有フォルダに関する情報を表示するには、Windows デスクトップの任意の場所をクリックし、<F1> を押します。次に [テキスト検索] タブをクリックし、キーワードのテキストフィールドに「\$shares」と入力します。

移行プロジェクトを作成すると、[Project Window] および [Using the Project Window] ダイアログボックスが表示されます。

次の図は、[Project Window] の上部に表示される [Using the Project Window] ダイアログボックスの例です。

図 4 [Using the Project Window] ダイアログボックス



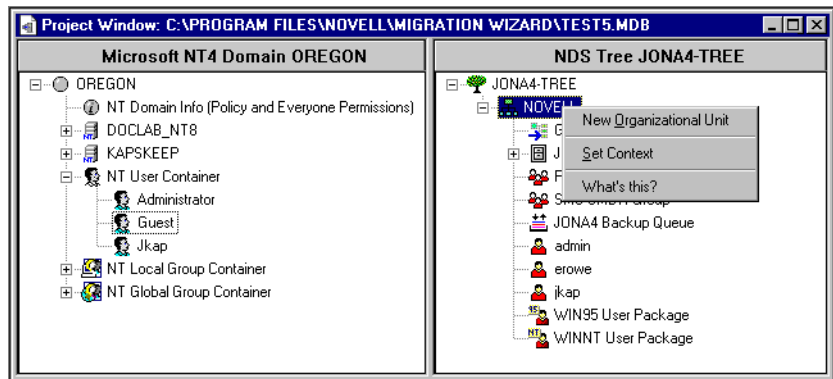
各移行プロジェクトに対して、このダイアログボックスに表示される3つの基本手順を実行します。実行する手順を理解したら、[Close]をクリックして[Project Window]を開き、移行プロジェクトのモデル化を開始します。

## [Project Window] を使用する

次に示すヒントを参照して、移行プロジェクトを整理し、より効率的に[Project Window]を使用してください。

- ◆ **新しいNDS部門またはフォルダを作成する**—新しいNDS部門(OU)を作成するには、NDS 部門のペアレントまたはフォルダを右クリックし、[New Organizational Unit] または [New Folder] をクリックします。次の図は、[Project Window] でこの操作を行った例です。

図 5 [Project Window] で部門を右クリックする



NDS ツリーで新しいNDS OUを作成し、そのOUにNTの情報を移行できます。これにより、NTの情報がNDS ツリー内の1ヶ所にまとめられます。また、NTデータを既存のOUに移行することもできます。NDS ツリーには、必要に応じて新しいOUをいつでも作成できます。

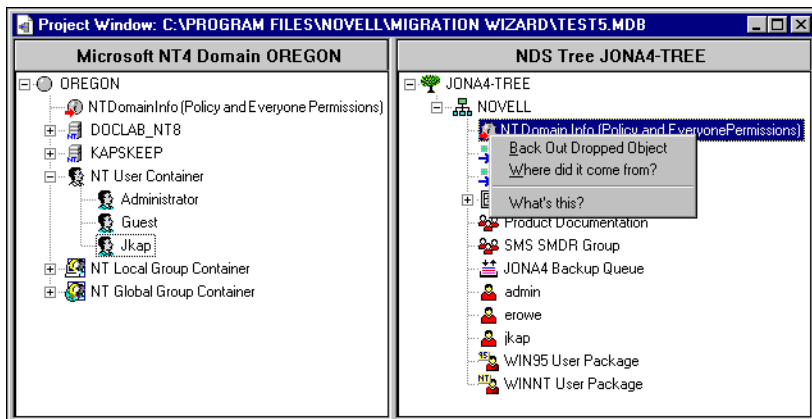
移行先のツリーに新しいコンテナまたは名前を追加する場合は、選択した名前が、次のNDS命名規定に従っている必要があります。

- ◆ 名前は一意でなければなりません。たとえば、同じコンテナ内で Debra Jones と Daniel Jones の両方に DJONES という名前を付けることはできません。
- ◆ プラス記号 (+)、等号 (=)、およびピリオド (.) の特殊文字を使用する場合は、これらの文字の前に円マーク (¥) を付ける必要があります。

- ◆ NDS では、大文字と小文字の区別、アンダースコア、およびスペースは認識されません。たとえば、NDS では **Manager\_Profile** と **MANAGER PROFILE** は同じ名前として扱われます。
- ◆ **コンテキストを設定する** — コンテキストを設定するには、NDS 部門を右クリックし、[Set Context] をクリックします。  
 コンテキストを設定するときに、NDS ツリーのどの部分を [Project Window] の右側に表示するかを指定できます。この機能は、NDS ツリーのサイズが大きく、多数のオブジェクトが含まれている場合に便利です。  
 特定のコンテナにコンテキストを設定すると、NDS ツリー内でオブジェクトを下方向にスクロールしたり、展開する必要がなくなります。コンテキストを設定したコンテナは、[Project Window] の右側に最上位のオブジェクトとして表示されます。
- ◆ [Project Window] でオブジェクトの説明を表示する — [Project Window] で各アイコンの短い説明を表示するには、NDS オブジェクトを右クリックし、[What's This?] をクリックします。
- ◆ **ドロップしたオブジェクトを元に戻す** — ドロップしたオブジェクトを元の位置に戻すには、NT ドメインまたは移行先 NDS ツリーにドロップした NT オブジェクトを右クリックし、[Back Out Dropped Object] をクリックします。

次の画面は、NDS ツリーにドロップしたオブジェクトと、右クリックによって表示されるメニューの例を示しています。

図 6 [Project Window] でオブジェクトを右クリックする



- ◆ **ドロップしたNTオブジェクトの元の場所を調べる**—ドロップしたオブジェクトがNTドメインのどこにあったかを調べるには、そのNTオブジェクトを右クリックし、[Where Did It Come From?] をクリックします。多数のオブジェクトをドラッグアンドドロップした場合、ドロップしたオブジェクトが以前にNTドメインのどこにあったかを覚えていなくても、この機能を使用すると容易に調べることができます。

NDS ツリー内で、NT フォルダ、ユーザ、およびグループをドロップした場所に問題がなければ、NT データを移行する前に移行プロジェクトを検証し、発生する可能性のある問題を解決します。

次のセクション「**移行プロジェクトの検証**」に進んでください。

## 移行プロジェクトの検証

[Project Window] で移行のモデル化を完了したら、新しいオブジェクトの格納場所で、移行先の NDS ツリー内にある既存の名前、権限、ネームスペースなどとの競合が発生していないかを検証する必要があります。

ドラッグアンドドロップした項目は NDS ツリーに表示されますが、これらの項目は、NDS ツリー内の目的のエリアへコピーするための準備として割り当てられているだけであることに注意してください。オブジェクトは、移行プロセスを開始するまで、実際にはコピーされません。

実際の NT の移行を開始すると検証プロセスが実行されるので、移行の前にスタンドアロンの検証プロセスを実行する必要はありません。ただし、移行を開始する前に重大なエラーや警告を検出しておく、移行時の検証プロセスにかかる時間が短くなります。

重大なエラーは、移行プロジェクトを実際に開始する前に、すべて解決する必要があります。警告は移行後に解決できます。

- 1 Migration Wizard のツールバーで、[Project] > [Verify Project] の順にクリックするか、ツールバーの [Verification] ボタンをクリックしてから、[Next] をクリックします。
- 2 次のセクション **17 ページ**の「**移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行**」で説明する手順の「**移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行**」から開始します。

## 移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行

NT データのコピー先になるボリュームおよびコンテナは選択しましたが、データはまだ移行されていません。NT ユーザオブジェクトを移行すると NDS オブジェクトに変換され、移行先の NDS ツリーに配置されます。移行を開始するには、次を実行します。

- 1 Migration Wizard のツールバーで、[Project] > [Verify and Migrate Project] の順にクリックします。
- 2 初期画面の説明を読み、[Next] をクリックします。
- 3 新しく作成した NDS ユーザに対してテンプレートオブジェクトを適用する場合は、ツリーを参照し、ツリービューからテンプレートオブジェクトを選択して、[Next] をクリックします。

テンプレートオブジェクトを使用しない場合は、チェックボックスをオフにして [Next] をクリックします。

**重要:** ホームディレクトリを移行するには、NT ユーザを移行先の NDS ツリーに移行するときにテンプレートオブジェクトを使用する必要があります。使用するテンプレートオブジェクトに対応したホームディレクトリのプロパティが定義されていることを確認してください。

**ヒント:** これまでにテンプレートオブジェクトを作成していないが、ここで使用する場合には、プロジェクトを保存して、ConsoleOne™ を開き、テンプレートオブジェクトを作成します。次に、Migration Wizard を再度実行し、[Open Last Project] をクリックします。次に移行手順の **手順 1** から再開します。

- 4 (状況によって実行)ZENworks がインストールされている場合は、次を実行します。
  - 4a 移行先の NDS ツリーを参照し、NT グループに関連付ける ZENworks ユーザポリシーパッケージを選択して、[Next] をクリックします。
  - 4b ドロップダウンリストから ZENworks ユーザポリシーパッケージを選択して、各 ZENworks ユーザポリシーパッケージに関連付ける NT グループを選択します。右矢印をクリックし、関連付けるグループを [Associate NT Groups] ウィンドウに移動して、[Next] をクリックします。

**ヒント:** 前のダイアログボックスで、WINNT-2000 および WIN 95-98 のポリシーパッケージを両方とも選択した場合は、最初に WINNT-2000 ポリシーパッケージだけを処理するダイアログボックスが表示され、次に WIN 95-98 ポリシーパッケージだけを処理するダイアログボックスが表示されます。ポリシーパッケージのタイプを 1 つだけ選択した場合は、ダイアログボックスは 1 つだけ表示されます。

ドロップダウンリストには、前の手順で選択したすべての ZENworks ユーザポリシーパッケージが表示されます。各ポリ

シーパッケージには、必要な数の NT グループを関連付けることができます。

- 4c** 特定の ZENworks ユーザポリシーパッケージに関連付ける NT グループを確認し、[Next] をクリックします。

関連付けを変更するには、[Back] をクリックし、**手順 4b** の操作を実行します。

ヒント : ZENworks 3.0 を使用している場合は、この画面は表示されません。

- 5** Microsoft NT ドメインと移行先 NDS ツリーで重複するファイル名の処理方法を指定します。次のいずれかを選択し、[Next] をクリックします。

- ◆ [Don't Copy Over Existing Files]
- ◆ [Copy the Source File If It Is Newer]
- ◆ [Always Copy the Source File]

- 6** NT ユーザのパスワードの処理方法を指定します。次のいずれかを選択し、[Next] をクリックします。

- ◆ [Assign the Same Password to All Users] — 移行されたすべてのユーザに対して同じパスワードが割り当てられます。
- ◆ [Assign a Randomly Generated Password to All Users] — ランダムに生成されたパスワードが割り当てられ、これらのパスワードは、Migration Wizard によって作成される `project_name_OUT.TXT` という名前のファイルに格納されます。このファイルは、移行プロジェクトと同じディレクトリに保存されます。
- ◆ [Read Passwords from a File] — 現在の NT パスワードがテキストファイルから読み込まれ、移行先の NDS ツリーに移行されます。移行を開始する前に、NT パスワードを含むテキストファイルを作成する必要があります。

このファイルの作成方法に関する詳細については、[Help] ボタンをクリックしてください。

- 7** 次の各オプションの横にあるチェックボックスをオンまたはオフにして NT の移行オプションを設定し、[Next] をクリックします。

- ◆ [Migrate File Permissions] — 通常、ファイルおよびディレクトリに関する権利は、Migration Wizard によって移行されます。何らかの理由で、ファイルおよびディレクトリに関する権利を再割り当てする場合は、ファイルおよびディレクトリに関する権利をコピーしないようにここで指定し、後で ConsoleOne を使用して再割り当てすることができます。

- ◆ [Migrate Everyone Permissions] —NT ドメイン情報オブジェクトをドロップした NDS コンテナには、Everyone グループに関連付けられていた権利が割り当てられます。Everyone グループの権利を移行する場合は、NT ドメイン情報オブジェクトを NDS ツリーの上位にドロップし、すべての NT ユーザがその権利を継承できるようにします。

ヒント: NT ドメインで作成されるすべての新しいフォルダには、自動的にデフォルトで Everyone の権利が割り当てられます。

- ◆ [Restart Option] — 通常、移行に関する情報は消去されません。ただし以前に移行を実行し、移行先のツリーから NDS オブジェクトを削除した場合、同じドメインの移行を最初からやり直すには、このチェックボックスをオンにします。

NT からユーザおよびグループを移行すると、NT 名および関連付けられた NDS ユーザ名のテーブルが、プライマリドメインコントローラ (PDC) のレジストリに格納されます。ファイルシステムを移行するときに、Migration Wizard はこのテーブルの情報を使用します。このテーブルには、各ユーザおよびグループが、移行先の NDS ツリーのどこに移行されたかが記録されています。移行先の情報を格納することにより、正しいファイルのアクセス権が適切なユーザに割り当てられます。

- 8** (状況によって実行) スタンドアロンの検証プロセスを実行している場合は、移行先サーバにある権利およびボリュームサイズを調べるかどうかを指定します。これらの情報を調べる場合は [Yes] をオンにし、[Next] をクリックします。

この処理には時間がかかりかかるため、移行プロジェクトを検証するたびに、権利およびボリュームサイズを調べる必要はありません。ただし、NT ファイルシステムを格納するための十分な空き容量が、移行先のボリュームにあるかどうかを検証する場合には、この処理は役に立ちます。

Migration Wizard は、ドロップされたフォルダの内容をスキャンし、これらのフォルダを移行するための十分な権利があるかどうかを検証します。

注: NT では、スーパーバイザ権をフィルタすることができます。ディレクトリ構造のルートに対してすべての権限を持っていても、ディレクトリ構造全体に対して同じ権限を使用できるとは限りません。

- 9** [Verify NT to NetWare Project] ウィンドウで、[Next] をクリックして検証を開始します。

- 10** プロンプトが表示された場合は、タイプが異なるオブジェクト間での名前競合を解決し、[Next] をクリックします。
- タイプが異なるオブジェクトをマージするか、そのままにするかを選択できます。
- 11** プロンプトが表示された場合は、タイプが同じオブジェクト間での名前競合を解決し、[Next] をクリックします。
- タイプが同じオブジェクトをマージするか、そのままにするかを選択できます。
- 12** プロンプトが表示された場合は、表示された NT ユーザおよびグループを移行しないことを確認し、[Next] をクリックします。
- この手順は、すべての NT ローカルグループに対して 1 回、NT グローバルグループに対して 1 回、移行先 NDS ツリーにドラッグアンドドロップしていない NT ユーザに対して 1 回の、合計 3 回実行する必要があります。すべてのユーザおよびグループを移行した場合は、このダイアログボックスは表示されません。
- 誤りがあった場合は、[Cancel] をクリックします。これにより、[Project Window] に戻ります。オブジェクトをドラッグアンドドロップし、ツールバーで、[Project] > [Start Migration] の順をクリックし、この手順を **46 ページの手順 1** から再開します。
- 13** 重大なエラーがあればすべて解決します。
- 警告または重大ではないエラーは、移行後に解決できます。重大なエラーまたは警告を解決するには、エラーの下にあるテキストフィールドに表示された説明を読みます。この説明には、考えられる原因と、解決のためのヒントが示されています。
- 14** 次のいずれかを実行します。
- ◆ この時点で、実際の移行を行っている場合は、[Proceed] をクリックし、移行を続行します。
  - ◆ この時点で、スタンドアロンの検証プロセスだけを実行している場合は、[Finish] をクリックし、**46 ページの「移行先の NDS ツリーへのユーザとデータの移行」**での指示に従って実際の移行を開始します。
- 15** (移行の場合のみ) エラーログおよび成功ログが表示されます。

次のセクション「**移行後の作業の実行**」に進んでください。

## 移行後の作業の実行

NT データを移行先の NDS ツリーに移行した後、次を実行します。

- ❑ ワークステーションに最新の Novell Client ソフトウェアがインストールされていない場合は、これらのワークステーションに Novell Client ソフトウェアをインストールします。

最新のクライアントは、[Novell Software Download Web サイト \(http://www.novell.com/download\)](http://www.novell.com/download) からダウンロードできます。複数のワークステーションに Novell Client を同時にインストールする方法については、(<http://www.novell.com/documentation/japanese>) で Novell Client のマニュアルを参照してください。

- ❑ ConsoleOne を使用して、移行先の NDS ツリーの正しい場所に NT ユーザおよびグループが移行され、正しいファイルと共有の権利を保持していることを確認します。

ヒント：保持している権利が不足している場合または多すぎる場合は、DOS プロンプトで「`CACLS¥?`」と入力し、画面の指示に従います。Microsoft ユーティリティでは、権利が表示されない場合があります。このコマンドを DOS プロンプトで実行すると、NT オブジェクトに関連付けられている権利が、表示されないものも含めてすべて表示されます。

- ❑ 移行先の NetWare サーバで ConsoleOne を使用して、データの移行先ボリュームを表示し、正しく移行が行われたことを確認します。
- ❑ NDPS<sup>®</sup> でのプリンタマッピングを設定します。設定方法については、移行先サーバで動作しているオペレーティングシステムのオンラインマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/japanese>) を開き、[Print Services] > [Novell Distributed Print Services] の順にクリックします。
- ❑ 移行したユーザのホームディレクトリを調べ、計画通りに移行されていることを確認してください。
- ❑ すべてのユーザに新しい NDS パスワードを配布します。パスワードは、Migration Wizard によって作成された、`project_name_OUT.TXT` というパスワードファイルに格納されています。このファイルは、移行プロジェクトを保存したディレクトリにあります。

# 4

## トラブルシューティング

発生した問題の内容に応じて、適切なセクションを参照してください。

- ◆ 一般的な接続の問題 (51 ページ)
- ◆ ワークステーションからサーバへの接続 (52 ページ)
- ◆ サーバからサーバへの接続 (53 ページ)
- ◆ ファイルのコピー (53 ページ)
- ◆ SMDR エラー (54 ページ)
- ◆ トラスティの復元 (54 ページ)
- ◆ NUWAGENT.NLM (55 ページ)
- ◆ NICI エラー (55 ページ)
- ◆ NDS の移行 (56 ページ)

### 一般的な接続の問題

接続に関する不要な問題を回避するために、次のことを確認してください。

- ◆ 移行元および移行先のサーバに、移行に必要なサーバとワークステーションに関して利用可能なライセンスがあること。
- ◆ 移行に使用する NDS<sup>®</sup> ユーザに、同時接続の制限がないこと。これを調べるには、次を実行します。
  - ◆ ワークステーション上で ConsoleOne™ を実行します。
  - ◆ NDS ユーザオブジェクトのプロパティを編集します。
  - ◆ [Login Restrictions] タブをクリックします。

- ◆ [Limit Concurrent Connections] チェックボックスをオフにします。
- ◆ 移行に使用する NDS ユーザに、移行元サーバの NDS オブジェクトに対するスーパーバイザ権があること。NDS ユーザの NDS オブジェクトが移行元サーバの [オペレータ] リストに含まれていることを確認するには、ConsoleOne™ を使用します。

## ワークステーションからサーバへの接続

サーバとワークステーション間の接続の確立または維持に問題がある場合は、次に示すトラブルシューティングの操作を 1 つ以上実行します。

- ◆ クライアントワークステーションをリブートして、Novell® Client™ のキャッシュをクリアします。
- ◆ ログインする代わりに、ドライブをサーバにマップします。この方法は、IPX™ プロトコルで接続している場合に特に便利です。
- ◆ 名前の代わりに、IP アドレスまたは IPX アドレスでサーバを検索します。[Novell Login] ダイアログボックスの [Server] フィールドに IP アドレスまたは IPX アドレスを入力します。
- ◆ サーバ名だけを入力し、ツリー名とコンテキストを空白にして、NDS ツリーではなくサーバに接続します。
- ◆ 認証解除された接続をすべて切断します。これを行うには、N アイコンを右クリックし、[NetWare Connections] をクリックします。認証を受けていないすべてのサーバおよびツリーから接続を解除し、再度ログインします。
- ◆ 次の手順で、[Preferred NetWork Protocol] が正しく設定されていることを確認してください。
  - ◆ [N] アイコンを右クリックします。
  - ◆ [Novell Client Properties] > [Protocol Preferences] の順にクリックします。
  - ◆ 必要な優先ネットワークプロトコルを選択し、[OK] をクリックします。
  - ◆ ワークステーションをリブートします。
- ◆ 使用していないプロトコルを、移行先サーバからバインド解除します。たとえば、移行には IPX を使用するが、移行先サーバには IP がバインドされている場合、移行時に移行先サーバの IP プロトコルをバインド解除します。

## サーバからサーバへの接続

サーバ間の接続の確立または維持に問題がある場合は、次に示すトラブルシューティングの操作を1つ以上実行します。

- ◆ NDS ツリーから移行元または移行先のサーバが削除されていないか確認します。移行時には、サーバがツリー内の他のサーバと通信できるようにしておく必要があります。
- ◆ 移行先および移行元のサーバが相互に通信できることを確認してください。

IPX 接続の場合は、サーバコンソールで「**DISPLAY SERVERS**」と入力します。IP 接続の場合は、サーバコンソールで「**PING**」と入力します。

- ◆ IPX を使用している場合は、移行元サーバおよび移行先サーバのフレームタイプと IPX ネットワーク番号 / サーバ ID が統一されていることを確認してください。IP 接続の場合は、対応するアドレス指定、サブネットマスク、およびゲートウェイの情報が設定されていることを確認してください。
- ◆ 移行先サーバをリブートします。

## ファイルのコピー

ファイルのコピー時に問題が発生した場合には、次に示すトラブルシューティングの操作を実行します。

- ◆ 移行先と移行元の両方のサーバで、ログインを有効にします。ファイルのコピーを開始する前にログインが無効になっていると、ファイルを移行する場合に、サーバが相互にログインすることができません。

注：ログインが無効になるように選択してある場合、Migration Wizard では、移行時のログインを無効にします。

- ◆ ファイルのコピーに時間がかかる場合は、サーバとワークステーションの共通の LAN 速度が最低に設定されていないかを確認してください。NIC およびサーバやワークステーション間の通信機器が、すべて半二重または全二重で通信できるようにハードコードされていることを確認します。これらの機器の設定は、すべて同じにする必要があります。全二重で問題が発生するようであれば、半二重を使用します。
- ◆ 圧縮ファイルを非圧縮ボリュームに移行する場合、ファイルのコピーの速度が遅くなる場合があります。

## SMDR エラー

移行先サーバで実行している SMDR.NLM プログラムが、移行元サーバに接続できない場合があります。この問題を解決するには、次の操作を1つ以上実行します。

- ◆ 移行元サーバをリブートします。
- ◆ 使用していないプロトコルを、移行先サーバからバインド解除します。たとえば、移行には IPX を使用するが、移行先サーバには IP がバインドされている場合、移行時に移行先サーバの IP プロトコルをバインド解除します。
- ◆ Migration Wizardが適切なTSA.NLMを移行先サーバにロードできない場合は、移行先のサーバコンソールから手動でロードし、画面の指示に従います。またはサーバコンソールで「**SMDR NEW**」と入力して、SMDR オブジェクトを再作成します。
- ◆ 移行先サーバのサーバコンソールで SMDR.NLM をロードし、移行先のサーバコンソールで「**SMDR NEW**」と入力して SMS™ の問題を解決します。
- ◆ 最新の NLM™ プログラムがロードされていることを確認してください。

Migration Wizard は、必要な NLM を移行元および移行先のサーバに自動的にコピーします。最新の NLM がロードされていることを確認するには、NetWare Migration Wizard¥Products¥NW3x ディレクトリにあるファイルを調べます。場合によっては、TSA312 を手動でロードする必要があります。

- ◆ プライマリ接続を調べます。システムトレイの [N] アイコンを右クリックし、[NetWare 接続] をクリックします。移行先のツリーおよびサーバが、「プライマリ」としてマークされていることを確認してください。
- ◆ NetWare 3 から移行する場合は、移行先サーバにバインダリコンテキストが設定されていることを確認してください。NetWare 6 に移行する場合は、移行先のサーバコンソールで、「**set bindery context = o=[context]**」と入力します。

## トラスティの復元

- ◆ トラスティの復元に失敗し、0xfffffb エラーが発生した場合は、必要なすべての場所で IP アドレスの変更が行われていないことを示しています。詳細については、[28 ページの「環境設定ファイルの編集」](#)を参照してください。

- ◆ トラストィの復元が必要な場合は、Migration Wizard で、[Finish NDS Migration] ボタンをクリックするか、ツールバーの [Restore Trustees] を選択します。

## NUWAGENT.NLM

NUWAGENT.NLM は、Migration Wizard の多くの処理で使用される NLM プログラムです。NUWAGENT.NLM をロードできないというエラーが発生した場合は、次の操作を実行します。

- ◆ サーバコンソールから、手動で NUWAGENT.NLM をロードします。
- ◆ 移行先のサーバコンソールで「**SMDR NEW**」と入力します。これにより、SMDR 設定が再作成され、NUWAGENT.NLM をロードできるようになります。

## NICI エラー

Migration Wizard で、NDS のロード中または NICI ファイルのコピー中に NICI エラーが発生した場合は、NICI ファイルが壊れている可能性があります。この問題を解決するには、NICI エラーが発生したサーバで次の操作を実行します。

- 1 サーバのライセンスディスクからサーバのSYS:SYSTEMディレクトリに、\*.NFK ファイルをコピーします。
- 2 コピーした \*.NFK ファイルの名前を、「NICIFK」( 拡張子なし ) に変更します。
- 3 [Novell のサポート Web サイト \(http://support.novell.com/filefinder\)](http://support.novell.com/filefinder) から、NREPAIR3.EXE をダウンロードします。
- 4 NREPAIR3.EXE を実行して解凍し、NREPAIR.NLM を探します。
- 5 サーバ上で NREPAIR.NLM を実行し、すべてのプロンプトに対して [Yes] をクリックします。
- 6 サーバをリブートします。
- 7 サーバに PKI.NLM をロードし、NICI エラーが発生しなくなったことを確認します。

NICI エラーがまだ発生する場合は、[Novell サポートホームページ \(http://www.support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://www.support.novell.com/search/kb_index.jsp) で、TID 10025666 を検索してください。

## NDS の移行

NDS の移行手順で移行に失敗した場合は、NDS の移行を再実行する前に、移行元および移行先のサーバを元の設定に復元する必要があります。サーバを元の設定に復元する方法は、データの移行がどの段階で失敗したかによって異なります。

3 番目のボタンの [Begin NDS Migration] の処理が失敗し、移行先サーバのリポートおよび移行元サーバの名前と識別情報の引き継ぎが行われなかった場合は、56 ページの「移行元サーバを元の設定へ復元する」の操作を実行します。

3 番目のボタンの [Begin NDS Migration] の処理が正しく完了し、移行先サーバのリポートおよび移行元サーバの名前と識別情報の引き継ぎが完了した場合は、次のセクションの操作を実行します。

1. 57 ページの「移行先サーバから NDS を削除する」
2. 58 ページの「移行元サーバから NDS を削除する」
3. 59 ページの「移行元サーバへ NDS を復元する」
4. 60 ページの「移行先サーバを再インストールする」

### 移行元サーバを元の設定へ復元する

3 番目のボタンの [Begin NDS Migration] の処理が失敗し、移行先サーバのリポートおよび移行元サーバの名前と識別情報の引き継ぎが行われなかった場合は、NDS を移行元サーバに復元します。NDS が復元されると、移行元サーバが元の設定に復元され、NDS の移行を再実行できる状態になります。

- 1 移行元サーバのサーバコンソールで、次のいずれかのコマンドを入力します。
  - ◆ 移行元サーバで NetWare 4 が動作している場合は、「**LOAD INSTALL**」と入力します。
  - ◆ 移行元サーバで NetWare 5 以降が動作している場合は、「**NWCONFIG**」と入力します。
- 2 [Directory Options] > [Directory Backup and Restore] > [Restore Local DS Information after Hardware Upgrade] の順に選択します。
- 3 <F3> を押し、バックアップファイルの場所を要求するプロンプトが表示されたら、「**SYS:SYSTEM\NUW30\NDSBU**」と入力します。

以上で、NDS が移行元サーバに復元されます。

重要: 移行先サーバはリブートしないでください。移行元サーバの識別情報が移行先サーバに引き継がれていないので、NDS の移行を再実行する前には、他の操作を行う必要はありません。

- 4 NDS の移行を再実行するには、Migration Wizard を起動し、使用していたプロジェクトを開きます。プロジェクトが開き、[Project Window] が表示されたら、[Begin NDS Migration] ボタンをクリックし、29 ページの「NDS の移行の開始」の操作を実行します。

## 移行先サーバから NDS を削除する

3 番目のボタンの [Begin NDS Migration] の処理が正しく完了し、移行先サーバのリブートおよび移行元サーバの名前と識別情報の引き継ぎが完了した場合は、移行元サーバに NDS を復元する前に、移行先サーバから NDS を削除する必要があります。

- 1 移行先のサーバコンソールで、「**NWCONFIG**」と入力します。
- 2 [Directory Options] > [Remove Directory Services from This Server] の順に選択します。
- 3 Directory Services を削除しないように指示する警告が表示されたら、<Enter> を押します。

NDS の削除時に表示されるその他のエラーはすべて無視します。

- 4 [Remove Directory Services] というプロンプトに対して [Yes] を選択します。
- 5 管理者のユーザ名とパスワードを入力します。
- 6 <Enter> を押して、別のオブジェクトを参照します。  
このオブジェクトは、移行元サーバに NDS が復元されるときに使用されます。  
警告: <Esc> は押さないでください。<Esc> を押すと、入力したサーバ参照が保存されず、サーバに復元できなくなります。
- 7 プレースホルダオブジェクトの識別名として、管理者の完全なユーザ名を入力します。
- 8 変更前の識別名として「**[Root]**」と入力します。
- 9 シングルリファレンスタイムソースに関する情報が表示された場合は、情報を確認して <Enter> を押します。
- 10 サーバがレプリカのマスターコピーを保持している場合は、警告が表示されます。<Enter> を押します。

- 11 マスタレプリカを保持するために、別のサーバを指定します。  
NWCONFIG を使用して別のサーバをランダムに選択することも、ユーザが特定のサーバを指定することもできます。
- 12 NWCONFIG ユーティリティに戻り、[Remove Directory Services from This Server] の選択によって、NDS が削除されたかどうかを確認します。  
  
NDS がすでに削除されているというメッセージが表示された場合は、移行先サーバを停止して、次のセクション「**移行元サーバから NDS を削除する**」に進んでください。  
  
NDS が正しく削除されなかった場合は、NWCONFIG を終了し、移行先のサーバコンソールで、「**NWCONFIG -DSREMOVE**」と入力して、この手順を再度**手順 2** から実行します。

## 移行元サーバから NDS を削除する

移行先サーバから NDS を削除したら、移行元サーバからも NDS を削除します。

- 1 DOS コマンドプロンプトで「**Server**」と入力して、移行元サーバを再起動します。
- 2 「**LOAD INSTALL -DSREMOVE**」と入力します。  
  
このコマンドを実行すると、NDS を削除するときに、INSTALL または NWCONFIG で警告やエラーがすべて無視されます。  
  
移行元サーバで NetWare 4 が動作している場合は、「**LOAD INSTALL -DSREMOVE**」と入力します。  
  
移行元サーバで NetWare 5 以降が動作している場合は、「**NWCONFIG -DSREMOVE**」と入力します。
- 3 [Directory Options] > [Remove Directory Services from This Server] の順に選択します。
- 4 すべての警告画面で、<Enter> を押して先に進みます。
- 5 [Yes] を選択して NDS を削除します。
- 6 NDS がロックされていることを示すエラーメッセージが表示された場合は、<Enter> を押して先に進みます。  
  
その他の NDS エラーメッセージが表示された場合は、無視してかまいませんが、記録しておいてください。
- 7 INSTALL メニューまたは NWCONFIG メニューが再表示されたら、[Remove Directory Services] を再度選択します。

NDS がすでに削除されたというメッセージが表示されたら、次のセクション「**移行元サーバへ NDS を復元する**」に進んでください。

NDS が正しく削除されなかった場合は、Novell テクニカルサポート (1-800-858-4000) にご連絡ください。

## 移行元サーバへ NDS を復元する

移行元サーバから NDS を削除することによって、移行元サーバのパーティションを保持していたすべてのレプリカリングからサーバが削除されました。この時点で次を実行し、移行元サーバに NDS を復元する必要があります。

- 1 サーバコンソールで、次のいずれかのコマンドを入力します。
  - ◆ 移行元サーバで NetWare 4 が動作していた場合は、「**LOAD INSTALL**」と入力します。
  - ◆ 移行元サーバで NetWare 5 以降が動作していた場合は、「**LOAD NWCONFIG**」と入力します。
- 2 [Directory Services] > [Install Directory Services onto This Server] の順に選択します。
- 3 移行前に移行元サーバが格納されていた NDS ツリーを選択します。
- 4 タイムゾーンおよび時間設定のパラメータを選択します。

NDS の復元中に表示される警告やエラーは無視してかまいませんが、<Esc> を押す前にエラーを記録しておいてください。
- 5 管理者の名前とパスワードを入力します。
- 6 移行前に移行元サーバが格納されていたコンテキストを入力し、<F10> を押します。
- 7 NDS(ディレクトリ) 情報を保存します。
- 8 サーバと NDS ツリーの同期には時間がかかるので、しばらく待機します。
- 9 INSTALL ユーティリティまたは NWCONFIG ユーティリティに戻り、[Directory Options] > [Select Directory Back Up and Restore] > [Restore Local DS Information after Hardware Upgrade] > [Restore Reference from another Object to This Server] の順に選択します。

これにより、移行先サーバから NDS を削除するとき割り当てたサーバオブジェクトに対する参照が、すべて復元されます。
- 10 <Enter> を押します。

- 11 プレースホルダオブジェクトの識別名として管理者の完全なユーザ名を入力し、変更前の識別名として「**[Root]**」と入力します。
  - 12 NWCONFIGユーティリティまたはINSTALLユーティリティを終了します。
  - 13 移行元サーバのサーバコンソールで、「**LOAD DSREPAIR**」と入力します。
  - 14 [Unattended Full Repair] > [Advanced Options] > [Check Volume Objects and Trustees] の順に選択します。
  - 15 管理者のユーザ名とパスワードを入力します。
  - 16 DSREPAIR を終了します。
  - 17 移行を実行したワークステーションで、プロジェクトを開きます。
  - 18 Migration Wizard の [Tools] メニューから [Restore Trustees] をクリックして、トラスティ割り当てを復元します。
  - 19 移行元サーバにパーティションのマスタレプリカがあり、NDS の移行を再実行する前にこれらのパーティションを復元する場合は、DSREPAIR を使用してパーティションを再作成します。
- 以上で、移行元サーバは元の設定に復元されました。

次のセクション「**移行先サーバを再インストールする**」に進んでください。

## 移行先サーバを再インストールする

移行を再実行するには、移行先サーバにオペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

ヒント：サーバのイメージファイルが作成されている場合は、再インストールする代わりにイメージを復元することができます。

- 1 移行先サーバを停止します。
- 2 NetWare をインストールします。インストール時には、画面の指示に従います。

移行先サーバで NetWare のインストールが完了すると、NDS の移行を再実行できます。**29 ページの「NDS の移行の開始」**の操作を実行してください。